

昭和62年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
貿易振興セミナー(A)

昭和63年3月

国際協力事業団  
研修事業部



昭和62年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
貿易振興セミナー(A)

18595

JICA LIBRARY



1071518E3J

昭和 63 年 3 月

国際協力事業団  
研修事業部

国際協力事業団

18595

## 序 文

この報告書は国際協力事業団が実施している貿易振興セミナー(A)に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として去る昭和62年12月2日から12月22日までの21日間、ネパール、インド及びパキスタンに派遣した帰国研修員フォローアップチームの業務報告である。

本報告書により、帰国研修員の母国における活動状況、研修員受入事業及びフォローアップ事業に対する要望事項について、関係各位のさらに深い御理解をいただき、今後これらの事業の向上改善に資することができれば幸いである。

なお本フォローアップチームの派遣に際し、並々ならぬ御協力を賜った外務省、通商産業省及び現地在外公館、事業団海外事務所等の各位に感謝の意を表します。

昭和63年3月

研修事業部長

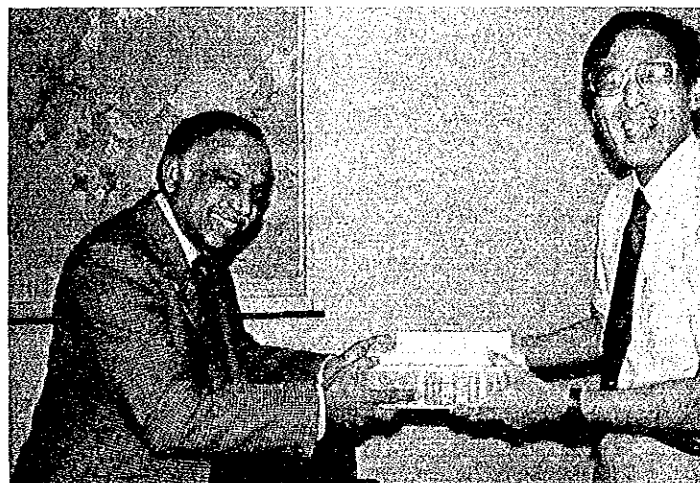




〔ネパール〕

フォロー・アップ・セミナー

帰国研修員 Mr. Yogendra Purush  
Mr. Ramesh B. Chipalu  
と面談調査



〔インド〕

商業省 Mr. Kumar 氏,  
「Standard Trade Index of  
Japan: 1987 ~ 88」  
等を手渡す。







スポーツ用品輸出推進協議会（帰国研修員所属先）での聞きとり調査

〔パキスタン〕

カラチ商工会議所にて



大蔵省 Economic  
Affairs Division  
にて



# 目 次

## 序 文

I 派遣チームの概要	1
1. セミナーの概要	1
2. 派遣目的	1
3. 団員の構成	1
4. 訪問国概要	2
5. 日 程 表	3
6. セミナーの実施	5
II 研修取扱い窓口機関における調査結果	6
1. 総 論	6
2. ネパール	7
3. イ ン ド	7
4. パキスタン	8
III 帰国研修員意見及び要望	9
1. 総 論	9
2. 貿易振興(A)セミナーフォローアップ調査(調査表回収及び現地セミナー参加状況等)	16
3. 帰国研修員異動状況	17
4. 調査表集計結果	21
IV ネパール、インド、パキスタンの貿易事情について	35
1. ネパールの貿易事情	35
2. インドの貿易事情	38
3. パキスタンの貿易事情	43
V 研修員受け入れ事業及びフォローアップ事業の問題点と今後の在り方について	48
VI 資 料 編	50
1. 貿易振興セミナー参加国及び研修員数 (S. 63. 3. 現在)	50
2. 帰国研修員用アンケート	54
3. フォローアップセミナー用レジュメ	65
4. ネパール商業省組織図	71
5. インド商業省商業局組織図	73
6. パキスタン商業省組織図	75
7. 1985年度参加Mr. Raul Dev Sharma(インド)が帰国後所属先に提出したレポート	77
8. サマリーレポート	83
9. 帰国研修員リスト	96



## I フォローアップチーム派遣の概要

### 1. セミナーの概要

貿易振興セミナーは1967年社団法人世界貿易センターを研修機関として、日本と開発途上国間の貿易促進及び相互理解をはかることを主目的に開発された。本セミナーは当初全開発途上国を対象に一つのセミナーとして開催されていたが、高まるニーズと参加国の地域性等を考慮し、1975年、アジア、アフリカ、中近東諸国を対象とした貿易振興セミナー(A)と中南米諸国向けのセミナー(B)とに分割された。セミナー(A)は例年1月～3月の間の2ヶ月にわたって実施され、講義、研修旅行、関連諸施設見学、カンントリーレポート発表及びディスカッション等によって構成されている。対象者は貿易政策に携わる各国の上中級行政官で貿易振興のための諸政策及び具体策を講義等を通じ検討し、参加国の貿易振興に寄与する事を主題としている。参加者数及び内訳については、Ⅵ資料編1.の受入実績表を参照願いたい。

### 2. 派遣目的

今回の指導班の派遣は参加国のうちネパール・インド及びパキスタンのアジアの三カ国を対象に1987年12月2日から22日の21日間にわたって行われた。派遣の主目的は、

1. 帰国研修員の所属先及び貿易関係諸機関の訪問及び研修員、その上司との面談を通じて我国で実施した本セミナー参加の成果及び要望等の調査
2. 当該国のかかえる貿易分野での問題点とニーズの把握
3. GIの配布先と流れ及び研修員選出方法の調査
4. 現地においてセミナーを実施し、日本をとりまく国際貿易状況の紹介と最新の貿易情報の提供であり、以上を分析することにより、今後のコース運営及びプログラムの改善の一助とする事を期することにあつた。

### 3. 団員の構成

団 長	中 村 尚 司	龍谷大学経済学部教授
貿易一般	清 水 正 子	(株)世界貿易センター国際部課長代理
業務調整	飛 田 尚 弥	国際協力事業団研修事業部研修第三課

#### 4. 訪問国概況

国名	ネパール王国 (Kingdom of Nepal)
----	---------------------------

面積	141千km <sup>2</sup> (日本の約 0.4倍)	貿易量	輸出	66.6 百万ドル
人口	16.1百万人 (1984年)	(1984年)	輸入	255.9 百万ドル
独立年月日	—	日本への輸出	0.3 百万ドル (0.5%)	
政体	立憲君主制	主要輸出品目	米, 木材, 生ジュート	
宗教 / 言語	ヒンドゥー教, 仏教 他 / ネパール語	対日主要輸出品目	皮革, 動植物性原材料, 繊維製品	
通貨	ネパール・ルピー	日本からの輸入	43.3 百万ドル (16.9%)	
国内総生産	2,290 百万ドル (1984年)	国際通貨準備高	129 百万ドル (1984年)	
産業構成	農業56%, 鉱工業12%, サービス32%	公的対外債務残高	427 百万ドル (1984年)	
1人当りGNP	160 ドル (1984年)	公的対外債務返済比率	3.4 % (1984年)	

国名	インド (India)
----	-------------

面積	3,288 千km <sup>2</sup> (日本の約 8.8倍)	貿易量	輸出	10,257 百万ドル
人口	749.2 百万人 (1984年)	(1984年)	輸入	17,502 百万ドル
独立年月日	1947年 8月15日	日本への輸出	1,030 百万ドル (0.5%)	
政体	共和制 (連邦制)	主要輸出品目	宝石, エンジニアリング製品, 衣料品	
宗教 / 言語	ヒンドゥー教 他 / ヒンドゥー語	対日主要輸出品目	鉄鉱石, えび, ダイヤモンド, 繊維製品	
通貨	ルピー	日本からの輸入	1,283 百万ドル (16.9%)	
国内総生産	162,280 百万ドル (1984年)	国際通貨準備高	8,536 百万ドル (1984年)	
産業構成	農業35%, 鉱工業27%, サービス38%	公的対外債務残高	22,403 百万ドル (1984年)	
1人当りGNP	260 ドル (1984年)	公的対外債務返済比率	10.1 % (1984年)	

国名	パキスタン回教共和国 (Islamic Republic of Pakistan)
----	---

面積	804 千km <sup>2</sup> (日本の約 0.4倍)	貿易量	輸出	2,566 百万ドル
人口	92.4 百万人 (1984年)	(1984年)	輸入	5,852 百万ドル
独立年月日	1947年 8月15日	日本への輸出	236 百万ドル (9.2%)	
政体	回教を国教とする共和制, 連邦制	主要輸出品目	米, 綿布, 綿糸	
宗教 / 言語	イスラム教, 他 / ウルドゥ語, 英語	対日主要輸出品目	綿花, 綿糸, えび	
通貨	ルピー	日本からの輸入	865 百万ドル (14.8%)	
国内総生産	27,730 百万ドル (1984年)	国際通貨準備高	1,610 百万ドル (1984年)	
産業構成	農業24%, 鉱工業29%, サービス47%	公的対外債務残高	9,953 百万ドル (1984年)	
1人当りGNP	380 ドル (1984年)	公的対外債務返済比率	26.7 % (1984年)	

S. 62. 2 JICA企画部地域課作成「国別経済技術協力概況表 (ファクトシート)」より

5. 日 程 表

月日(曜)	場 所	内 容	面 談 者 等
12月2日(木)	成 田	出発 (JL717 / TG311)	
3日(木)	カトマンドゥ JICA事務所	到着 日程等うちあわせ	小野所長, 杉本職員
4日(金)	在ネパール日本大使館 商業省計画局 貿易振興センター ホテル・ジャングリラ	表敬 帰国研修員の現況及び要望調査 帰国研修員の現況及び要望調査 帰国研修員面談調査	西名経済協力担当一等書記官 Mr. Shrestha: Chief Planning Manager 他 Mr. Adhikari: General Manager Mr. N. B. Basnyat
5日(土)	カトマンドゥ市内 成 田	資料収集・整理 中村団長 東京発 (JL 717 / RA 402)	
6日(日)	ホテル・ジャングリラ Patan 工業団地 カトマンドゥ ホテル・ジャングリラ	帰国研修員面談調査 見学 (Mr. Chipalu, Mr. Purush 同行) 中村団長 到着 日程等打合せ	Mr. Ramesh B. Chipalu Mr. Y. Purush 小野所長
7日(月)	国家計画委員会 ネパール商工会議所 Nepal Chamber of Commerce 訪問 UNDP	Man Power Development Div. 訪問, 要望調査 帰国研修員の現況, ネパールの貿易事情及び日本での技術研修に対する要望調査 ネパールの貿易事情及び日本での技術研修に対する要望調査 ネパールの貿易事情及び技術協力の可能性について説明を受ける	Mr. Amatya: Joint Secretary Mr. Subedi: Acting Secretary Mr. Shrestha: Secretary General 他 Mr. B. Jenks: Asst. Res. Rep
8日(火)	ホテル・ジャングリラ	フォローアップセミナー "Japan's Economic Structure & Foreign Trade" 及び夕食会 (含帰国研修員面談調査)	帰国研修員及び関係者18名, 西名書記官, 小野所長他日本側関係者等
9日(水)	JICA事務所 カトマンドゥ→デリー	帰国研修員面談調査 現地商社からネパールの貿易事情について説明を受ける 事務所報告 移動 (IC 414)	Mr. M. Bajracharya Mrs. Dali (SANPO International Co.) 小野所長
10日(木)	JICA事務所 財務経済省	日程等うちあわせ Dept./Economic Affairs訪問 要望調査	倉林所長 Mr. G. M. Pillai: Deputy Secretary

月日(曜)	場 所	内 容	面 談 者 等
12月11日(金)	J E T R O事務所	インドの貿易事情について説明を受ける	J E T R O土井所長
	商業省	帰国研修員の現況及び要望調査	Mr.S.Kumar: Deputy Secretary
	アショカ・ホテル	帰国研修員面談調査	Mr.A. K.Chaudhuri: Director
	スポーツ用品輸出推進協議会	帰国研修員面談調査	Mr.M.Sen
12日(土)	マウリヤ・シェラトンホテル	帰国研修員の現況及び要望調査	Mr.Suri: Acting Secretary 他
	マウリヤ・シェラトンホテル	帰国研修員面談調査	Mr.C.Gupta
13日(日)	デリー市内	資料収集	
	デリー市内等	資料整理	
14日(月)	エレクトロニクス・ソフトウェア輸出推進協議会	要望調査	Mr.Roy: Dy Director
	インド投資センター	インド・日本間貿易の現況について説明を受ける	Dr. Joseph
	貿易開発公社	インド貿易の現況説明及び要望調査	Mr.Obayya: Executive Director
	Dept. of Electronics	帰国研修員の現況及び要望調査 帰国研修員面談調査	Mr.B.N.Bhagwat: Joint Secretary 他 Mr.R.S.Sachdeva: Joint Director
15日(火)	在インド日本大使館	表敬	堀口公使
	マウリヤ・シェラトンホテル	フォローアップセミナー "Japan's Economic Structure & Foreign Trade" 及び夕食会	帰国研修員及び関係者9名 倉林所長, 他日本側関係者等
	J I C A事務所	事務所報告	倉林所長
16日(水)	デリー→カラチ	移動 (PK 273)	
	在カラチ日本総領事館	表敬	川崎総領事, 大千里副領事
17日(木)	J E T R O事務所	パキスタン・日本間貿易の現況について, 説明を受ける	J E T R O 山原所長
	カラチ商工会議所	パキスタン・日本間貿易の現況について, 説明を受ける	Mr.Sheikh: President, JETRO 山原所長 他
	カラチ市内	資料収集	
18日(金)	カラチ→イスラマバード	移動 (PK 308)	
	J I C A事務所	日程等うちあわせ	谷川所長, 立石職員
19日(土)	ホリデイ・イン・ホテル	帰国研修員面談調査	Mr.M.H.Shah



月日(曜)	場 所	内 容	面 談 者 等
12月20日(日)	在パキソン日本大使館	表敬	小嶋 2 等書記官
	大蔵省	Economic Affairs Div. 訪問 要望調査	Miss.N.Siddiqi: Deputy Secretary
	商業省	帰国研修員の現況及び要望調 査	Brig.(Rtd)A.Qureshi: Join- t Secretary 他
	ホリディ・イン・ホテ ル	帰国研修員面談調査	Mr.N.Qureshi
	JICA事務所	フォローアップセミナー "Japan's Economic Structure & Foreign Trade" 及び昼食会	帰国研修員及び関係者 7 名 谷川所長, 他日本側関係者等
	イスラマバード →カラチ	事務所報告	谷川所長
22日(火)	成 田	出発 (PK319 AF174/TG740) 帰国	

#### 6. セミナーの実施

今回フォローアップ調査を行った3ヶ国において, "Japan's Economic Structure and Foreign Trade" と題して, 中村団長が日本経済開発の概略, 経済成長と会社社会, 日本経済の展望等について, 帰国研修員及び関係者を対象にセミナーを実施した。(Ⅵ資料編 3.セミナーレジュメ参照)

又, 同時に「Conductive to Business Factors for Achievement) と題する経団連専務理事 三好正也氏を講師とする日本の経済構造を紹介するビデオ(録日本ケーブルテレビ制作)を上映し, 書籍「Standard Trade Index of Japan: 1987~88 Edition」(日本商工会議所編)及び「日本商工経済団体名簿」(東京商工会議所編)と共に, ネパール貿易促進センター, インド商業省, パキスタン商業省それぞれに寄贈した。(口絵写真参照)

## II 研修取扱い窓口機関における調査結果

### 1. 総論

調査結果をまとめると、以下の表のようになる。

	<Nepal>	<India>	<Pakistan>
1. 選考プロセス	<p>JICA ↓ National Planning Commission Man Power Development Division ↓ M/Commerce ↓ Trade Promotion Centre 商工会議所 他 ↓ M/Supplies</p>	<p>JICA (日本大使館) ↓ M/Finance, Dept. Economic Affairs ↓ M/Commerce ↓ Export Promotion Councils Commodity Boards 州政府 他 ↓ その他各省庁 ↓ 各州政府 ↓ 関連各機関</p>	<p>JICA ↓ Economic Affairs Division ↓ M/Commerce ↓ Export Promotion Bureau 他 ↓ その他各省庁 ↓ 各州政府 ↓ 関連各機関 ↓ Establishment Div.</p>
2. 選考基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○官公庁優先。</li> <li>○Applicantsが1部局・組織に片寄らないこと。</li> <li>○GI要件を満たす者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○官公庁のスタッフであること。</li> <li>○5年以上の実務経験があり、その中で1カ月以上の海外研修に出していない者。</li> <li>○帰国後、当該分野の業務を(一定期間)続ける者。</li> <li>○GI要件を満たす者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○官公庁のスタッフであること。</li> <li>○過去3年間に1年以上の海外研修に出していない者。</li> <li>○当該研修分野に業務(将来的なものも含め)が合致する者。</li> <li>○GI要件を満たす者。</li> <li>○Establishment Divisionの審査。</li> </ul>
3. 貿易振興センターの位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修成果が、帰国研修員の業務に反映され、業績が向上することにより、組織が活性化されることを期待。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本経済・日本市場を研修員が知る機会であること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本市場のみならず、開発政策・近代化における貿易をとらえ直す機会であること。</li> </ul>
4. 問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○M/General Administrationによる省庁間人事異動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国土・人口共に巨大であるインドに割り当て枠が1名分しかないこと。</li> <li>○行政機構の複雑さ、巨大さからApplicant選考に時間がかかり、結果的に割り当て枠消化率が低くなっていくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○帰国研修員16名中7人が“Untraceable”であること。</li> </ul>

次に、各国ごとの補足説明を述べる。

## 2. ネパール

研修員選考に関するネパール側の最終窓口、国家計画委員会（以下NPCと略す）においては、技術協力の成果が、最終的に貿易拡大をもたらす、との視点から、貿易振興セミナーのみならず、JICA研修全体がネパールの貿易拡大に貢献している、との評価を出している。当然、本セミナーへのニーズも高いが、本セミナー対象者が文科系国家公務員であることから、省庁間人事異動の枠内にあり、研修終了後、研修内容とは全く関係のない部署に配置される可能性が高い。（Ⅲ帰国研修員アンケート調査結果参照）NPC Mr. Shrestha によれば、この問題は現在改善の方向にある、とのことであるが、研修効果の拡大、一般化に疑問が残る。

また、ネパール第7次5ヶ年計画により、政策全般に民間重視路線がうち出され、民間部門による貿易拡大が謳われているにもかかわらず、関税その他省庁間横断マターが、貿易拡大の障害になっているとの声が商工会議所等から出されていることから、現在の中間層を対象としたセミナーに平行して、高級研修員レベルの人々に日本の貿易政策立案経験や、官民コーディネーションのノウハウを知ってもらい、具体的政策決定に役立ててもらうことも、セミナーの成果の拡大に貢献する可能性がある。この観点から、本セミナー分野に関する公開技術セミナーのネパールでの開催や、日本人専門家派遣による技術協力も有効であろう。ちなみに、UNDPにおいては、小規模地場産業振興に関する援助をセミナーと専門家派遣の組みあわせによって計画中であり、UNDP・ネパール輸出振興センター共に日本人専門家派遣制度に若干の興味を示したことを付記しておく。

## 3. インド

行政機構内での研修員選考手続き・基準は全く制度化されている。

本セミナー研修員選考の直接的窓口である商業省においては、毎月12月に、翌年度海外研修候補生のリストを作成する。リスト作成にあたっては、

- 1) 過去5年間の実務経験中、1ヶ月以上の海外研修経験がない者。
- 2) 帰国後、当該分野の業務を続ける者。IAS (Indian Administration Service) Officer については、むこう6ヶ月以内に人事異動の可能性のある者は選考しない。

の2点を考慮する。

このリストをもとに、各セミナーについて、Technical Assistant Selection Committee（商業省 Secretary が委員長となり、3名の Joint Secretary と、当該セミナーの分野を担当する Deputy Secretary 1名が委員）が、財務経済省に提出する要請者を決定する。

財務経済省 Dept./ Economic Affairs は技協担当局であり、各国セミナーのオファーをインド憲法の行政組織規定に基づき、各担当省庁に伝達する。伝達にあたって、日本での研修については原則として公官庁のスタッフの選出を指示し、一方、西独での研修を民間人中心と定義して明確な線引きを行っている。また、各省庁から提出された要請書を検討し、セミナーオファー国へ最終的要請者を提示する。検討にあたっては、5年間の実務経験があり、過去3年間に1ヶ月以上の海外研修をうけて

いない者を最優先としている。本セミナーについては、輸出振興プロジェクトの一環としての選考（商品が確定している、ターゲット市場が確定している等）を心がけているとの言を Mr. Pillai (Deputy Secretary) から得た。

以上のように、選考手続きがインド側で確定していることは、反面インドの巨大な行政機構に時宜を得た形で研修をオファーしない限り、日本側に要請がスムーズにあがってこないことを意味する。事実、62年度「貿易振興セミナー(A)」(受入期間S. 63. 1. 14~3. 13. ;要請しめぎりS. 62. 11. 14)については、フォローアップチームが来印した時点でもインド側から要請が上がって来ず、この点をチームが商業省に問い合わせることとなった。商業省担当官 Mr. Kumar (Deputy Secretary) によれば、研修候補者は1986年12月時点で決定しているが、財務経済省から指示がないため、要請出来ないとのことであった。財務経済省側から本セミナー62年度分GI到着が7月であり、手続き的に要請しめぎりに間にあわなかったとの説明があり、フォローアップチームとしては、今回のチーム帰国直後までに候補者が日本側に要請されれば受け入れ可能であるとして、JICAインド事務所にフォローを依頼した。結果、62年度貿易振興セミナー(A)にインド商業省から研修員が派遣された。本件は、多分にインドの内政事情ではあるが、この経験からも、インドに対しては、研修割り当て枠が決定した時点で一刻も早くGI等オファーを行う必要があると考えられよう。

#### 4. パキスタン

本セミナー研修員選考担当窓口である商業省からは、研修員滞在費に関する要請が出された。パキスタン商業省においては、海外研修に関し、特に“セミナー”と記されたものについては、一定の地位にある者以上を選考しているとのことであり、現在のJICA一般研修員に対する滞在費では、パキスタン選考者の通常の海外出張手当て以下しか支給されず、差額をパキスタン側が補ったとのことであった。本件については、日本側としては“セミナー”と銘打ってはいるものの一般技術研修の範疇内でとらえており、パキスタン側も考慮して欲しいと説明した。

JICAの“セミナー”という名称について、一定の定義を途上国側にも伝えるべきかもしれない。

一方、特に在パキスタンJICA事務所からは、本セミナー割り当て枠の年度ごとの実施が一定していない(M資料編 帰国研修員リスト参照) ことに関し、パキスタンの研修員枠全般に係る問題として、Establishment Division の存在が指摘された。パキスタンにおいては、Economic Affairs Division が選考・集計した海外研修要請者を Establishment Division が再度審査し、最終的要請者を決定しているが、審査にあたっては、研修内容と職務の関連や研修効果以外に人物考査等の要素が大きなウェイトを占めていると言われ、選考結果が不安定となりがちのことであった。帰国研修員に“Untraceable”が多く見られる点から推察できるように、頭脳流出に悩むパキスタンの内政問題ではあるが、何らかの改善策が必要かもしれない。

### Ⅲ 帰国研修員意見および要望

#### 1. 総 論

フォローアップチーム派遣にあたっては、事前に各国の国際協力事業団事務所を通じ質問表（54ページ参照）を帰国研修員に送付し回収し、また出来る限り直接面談してセミナー効果および今後のプログラム編成への意見を聴取した。以下、集計結果を述べる。

解答がインド、ネパール、パキスタン何れの国の何年度の帰国研修員の意見であるかを明らかにするため質問表の該当欄に記号によって表現した。

例 I 75=インド75年度参加者

次に全体的傾向を記す。

#### (1) A. セミナーテーマ

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| ○輸出市場としての日本       | 有益であった。    |
| ○経済・貿易振興のための地域的協力 | 有益であった。    |
| ○日本の輸出振興における経験    | 非常に有益であった。 |
| ○国際関係についての自由討議    | 非常に有益であった。 |

#### B. プログラム

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| ○講義                       | 非常に有益であった。 |
| ○カントリー・レポートとオープン・ディスカッション | 非常に有益であった。 |
| ○マーケティング・リサーチ             | 非常に有益であった。 |
| ○見学他                      | 最高に有益であった。 |

#### (2) セミナー成果の利用方法

資料、テキスト等の活用が圧倒的に多く、また自分の職域内での機関紙等に寄稿するなどして知識、経験の伝達を図っている者が多く見受けられる。（Ⅵ資料編 7.Mr. Sharma レポート参照）

すでに昇進した帰国研修員で本セミナーの経験および知識が国際的な業務に非常に有益であったと高い満足感を持つ者も少なからず見受けられた。

#### (3) セミナー参加後の職務の変化等

変化ありが変化無しの二倍以上に達し、最も多い変化は勤務条件の好転、責任の増大、昇進につながる等であり、また変化のもう一つの形式として政府機関の人間として避けられない転勤があげられている。

#### (4) セミナー成果を効果的に活用し得ない理由

資金の不足や経済状況がトップに挙げられているが、続いて調査機関や実施体制、熟練スタッフの不足、また関連人材養成機関の不備を挙げる者が多くみられる。

#### (5) 人的ネットワークの有無

セミナー参加によって参加者間のコミュニケーションの継続が得られたと答えた帰国研修員は予想を下回り、個人的交友を発展させて貿易資料や情報交換に生かしている帰国研修員は僅かな数に留まっている。

以上は研修参加についての帰国研修員の観点であるが、項目のチェック以外に書き出した文章の内から帰国研修員全員がいまだに国際協力事業団及び研修監理員に対する鮮明な記憶を持ち、日本についての良き思い出を保持していることは驚く程であった。

(6) 今後の貿易振興(A)セミナーに対する助言および要望

A. 研修実施期間および時期

長期化すべきとする意見も散見されるが、ほぼ現在の二ヶ月を良しとする意見が多いと結論付けられる。

B. 講義科目

大体現状のままで十分であるがさらに加えるとしたらという条件で、非関税障壁、特定品目についての集中的なラウンド・テーブル・ディスカッション等の新設の要望がみられる。

C. 見 学

現状のままで十分であるが可能であれば各種フェア、港湾、商工会議所、品質管理重点の企業見学、日本人特に商社や関連官庁の人間とのオープン・ディスカッション、中小企業の訪問を希望する意見が多数となっている。

D. 研修旅行

現状で良いとする意見が殆どである。

E. その他

全体的に各国固有の問題に対するアプローチを希望し、各国別の問題を踏まえたセミナー構成の実施を提言している。

F. フォローアップ事業

全員が希望しており、特にリフレッシュ・コースまたは個別研修の希望は圧倒的と言える。

これに勝るとも劣らない意見が貿易、経済関連の資料の送付希望であり、折角の研修成果が更新されなくては急速な世界経済の変化に対応し得ないとするコメントが出されていた。

次に、前記の調査表および面談の結果により提出された問題点につき個々に取り上げ、その対応について考察することとする。

設問 2-(1)-A-④ 輸出対象市場としての日本(含マーケティング・リサーチ)

- これは日本に輸出可能な品目を想定し、その市場性について具体的な調査を行い、また出来る限り多数の日本人をインタビューして、日本人消費者または流通部門にある人間の意見を接続聴取することを課したものであり、最終的にレポートをまとめ、提出することを義務付けている。

本科目の狙いは、参加研修員が政策立案の立場からのみ自国の問題を考え、抽象的な対策あるいは改善策を以て由とすることを戒め、生産者との関連を念頭に置いて貿易振興策を策定するよう、日本市場に直接曝される経験をもたしめることが狙いである。

- 今回の解答を分類した結果、各国とも本省の上級政策立案職に就いている帰国研修員が揃って「有意義な経験であった」と答えているのに対し、2名の民間企業の経営者（ネパール）が「全く意義が無い」解答となっている。幸い、当人達とは3時間にわたり面談し、工業団地の視察に同行してもらったので、詳しく意見を聴くことが出来た。それによると、彼等は日本ですぐにも自国の参考としうる規模の企業を視察し、またそれをもとにネパールから輸出可能な品目を具体的な商談に持ち込むことを、期待していたため、全く失望したとの感想であった。

本科目の目的が前記の通り、各省庁の政策担当官を対象として、民間レベルでの市場開拓経験を持たしめるものである以上、二人の意見は参考にすべきとは言え、マーケット・リサーチそのものの存在を左右する意味はないと判断できる。

- 本科目の実施方法については、特にネパールの帰国研修員およびその派遣機関より「日本到着後すぐに異文化の中でリサーチを始めることは非常に困難なである。せめて一ヶ月経過後が望ましい。」という意見が強く出されたが、開始時期については各セミナー毎に様々な意見が出され、その可否を決めかねている現状なので参考意見として聴取した。様々な意見を調整してベストと信じられる方法を考慮したい。

#### 設問2-(1)-A-⑥ 日本の輸出振興の経験

- これは日本が従来輸出振興のために採用した方策および官民の協力と努力を解説する目的で設けられたテーマであり、本セミナーの最も重要な部分といえる。
- 質問表および面談の結果は「有意義であった。」という回答より「非常に有意義。」「最高に有意義。」という評価および意見が圧倒的であり、「今後も貿易発展の良き手本として我々発展途上国の参考のために惜しみなく、その経験を分かち合いたい。」（パキスタン68年、同85年等々）旨の意見を多く聴取した。
- このように高い評価を得ている本テーマは一層重要視し、今後も有効に科目編成を推進せねばならない。

#### 設問2-(1)-A-⑦ 国際関係についての考察

- 貿易は一国のみが実施しうるものではなく、当然単数のパートナーとの関係が生じ、また人的交流がそのベースにある。従って、貿易振興のためには、国際的な視野と経験を深め、高度の見地から国と国の関係を考察する必要がある。このためセミナー期間中に可能な限り多くの国際関係考察の場を設けている。
- 本趣旨は非常に良く理解され、また評価されていることが調査表および面接のなかから浮かび上がっているが、「現在の貿易関係は益々グローバルなものとなりつつあり、国際的な

視野を保持して、多角的に考察しない限り一国の貿易推進は困難であり、貿易振興セミナーの様な機会に各国の関係について詳しく考察することが非常に有意義である。」(86年インド) 旨の意見がこれを集約していると考えられる。今後も一層本テーマの充実を図りたい。

#### 設問2-(1)-A-④ 南西アジア諸国の地域的協力

- 地理的、発展レベル的に共通の分野を発見し、協力体制を築いていくために何が可能かを考察するためのテーマであるが、評価は芳しくなく、「全く意義が無い。」「少ししか意義を認めない。」回答が散見している。面談においても「貿易振興は国際的協力が難しいゆえ、競争者間の理想的協力機関を考える以前に自国の推進策を考察するのに精一杯。」(76年インド、83年パキスタン等々)の解答は肯首せざるを得ないものである。しかしながら、現実には他の例(ASEAN, EC等)のように参加国にとって有意義な体制も、実現していることに鑑み、当該地域の諸国による何らかの協力関係を考察することは、殊に今後の世界貿易を考えるうえで重要ではないかと思われる。
- 今回以降も本概念を提案し続けて、参加者の活発な討議に付し、その判断を得たいと考える。

#### 設問2-(1)-B-① 講義

- 非常に有益であった。とする意見が大半を占めるが、自分にとっては非常に有益であったが、自己の所属する組織にとり殆ど、または全く意味を見出せないと回答した帰国研修員がインドのみに2名おり、面談においてその意味を尋ねたところ以下の通りの説明を受けた。
- イ. 高度なプランニングの源泉として日本で学んだことの価値は極めて高いが、自分はIASオフィサーとしてインド全体の問題を担当する職務にあり、またセミナーの成果を一省の中で伝達する以前に転省する等、貿易関連外の業務への異動があった。これは不可避のことであり、今後は自分より実務的あるいは具体的に成果を生かせる人物を貿易振興セミナーに参加させた方が良い。(インド79年)
- ロ. 自分の所属する組織はリサーチの分野でのエキスパートを養成し、それぞれの精鋭度と熟練度を個別に増していくことが期されるのであるから、組織への伝達は考慮されない。(インド69年)
- 本問題は設問2-(2)および(3)に関連するものであり、セミナーへの適材応募が徹底すれば上記のようなセミナー目的との齟齬は避けられると考えられる。個人としてはセミナー参加の機会を十分に有効利用し、帰国後も重要なポストに就いて活躍しているにも関わらず、人選そのものへの基本的なセミナー改善のアドバイスを提出する率直さを評価し、今後のセミナーの募集内容等に参考として行く必要がある。

#### 設問2-(1)-B-② カントリーレポートとオープンディスカッション

- 前問と同様、自分自身にとっての有効性は認めながら、所属機関への影響、普及については考慮しない傾向もみられた。しかしながら特にコメントを付して「LDCに共通の問題に



ついて実に多くのことを学び、またそれについての実のある討論の場を持てた。」として本セッションを高く評価する意見が多く、従来、通常のセミナー最終評価会における研修員の提案に基づいて、全体的にカンントリー・レポートの充実とディスカッションの増加を図ってきたことは適切であったと確信した。

- これについては5年前の本セミナー・フォローアップにおいてアフリカ地域での調査の際、エチオピア、エジプトの研修員から出された感想と全く等しいものがあり、貿易振興(A)セミナー対象の多くの地域でカンントリー・レポートを通じて得られた、参加各国共通の問題点認識とこれを巡る討論の経験が反響され、あるいは業務のなかに生かされていることを感じさせられる。

#### 設問2-(1)-B-③ 種々の機関、施設または企業の見学

- 本設問は参加者個人にとっても、また所属機関にとっても非常に有益であったとする殆ど全面的な好評の回答を受けており、プログラム編成において予期した成果を十分に挙げていると考えられる。
- ネパール81年度参加者の「日本の大企業の見学は、それなりにテクノロジーの高度さを実感するので興味あるが、零細企業の経営等、今後のLDCの企業が現実参考とし、取り入れられる事例に触れる機会をより増やすべきである。」とする意見も十分配慮すべき問題と考察できる。

#### 設問2-(1)-B-④ マーケティング・リサーチ

- 本科目は1980年度より漸次充実してきたので、かなり以前の参加者は回答し難い設問であった。設問のなかで一番バラつきが見られるのも当然であろう。
- 上記の条件を考慮して面談の際に本科目の詳細な説明をし、これについての感想を口答で求めたが、大旨興味を示し、座学のみ偏ることの危険を避け、現実に裏打ちされた政策立案を助けるものとして是非、充実すべきであるとする意見が多くみられた。
- 本科目の編成と実施方法については毎年、見直しを図っているが、様々な意見と要望が統一されず、完全なプログラムには至っていない。しかしながら、調査結果を15ページ程度のレポートとして提出することが義務づけられているため、研修員にとっては最も関心のある科目であることは否めず、ネパールのように商務省の研修員上司が特に、本科目の実施時期の考慮を要望する等、帰国研修員の意見が盛り込まれたと考えられる反応が見られた。こういった具体的な意見をより多く取り込んで、常に改善を進めていくべきであると確信した。

#### 設問2-(1)-B-⑤ その他

- 「非常に有益」と回答しながら具体的に記していない調査表が多く、面談において補足したが、おもに日本で学ぶこと自体についての感想とセミナーの全体構成および受け入れ体制が、良かったことを意味するという意見が多数を占めている。
- 「日本の官民の協力による貿易発展について、多くのことを学んだが果たして自国にそれ

だけの協力体制が可能かどうかと考えてしまう。国民性の違いもあるので、即効性のある政策は難しいかもしれないが取捨選択を各国の責任において実行する前提で、アジアの一員としての日本が参考となるプランを様々示してくれる場として貴重な機会である。」旨のネパール83年度帰国研修員の意見が全体を代表していると言える。

設問2-(2),(3)および(4)セミナー成果の利用方法、帰国後の職務の変化、および成果の具体的実現の可否を左右する条件

- 上記三問は密接な関係にあたるため、相互の関連として記す。
- セミナー期間中に配布された資料については非常に良く利用されていることが確認され、殊にかなり以前の帰国研修員がいまだに貴重な参考として役立たせているという事実は望外の喜びであった。
- 帰国後、自分の所属機関内でセミナーを開催した帰国研修員はおもに専門機関の研修員であり、本省において組織的にセミナーを実施した例は少数に留まっている。
- 本省の帰国研修員は帰国後、短期間で他の省に転勤ないし留学するケースが少なからずあり、こういった場合はセミナー成果はあくまで、帰国研修員個人の内に留められて、波及効果は望めないといえる。この点についてはネパールの TRADE PROMOTION CENTER から参加した研修員(85年度)等からも提出された意見であり、選出する各国の主体性を重視しつつも応募の時点で慎重に配慮すべき問題であると言える。
- セミナー成果を具体的に生かす意図に立って、その実行の障害となるものをあげせしめると経済、財政的困難の他に人材不足および人材養成機関の不足を挙げる者が多数みられる。わずか帰国研修員とその周辺のみが貿易振興について理解し、様々な方策を提言しても、これを支持し、実行の手助けとなる体制が不備という状態かと思われる。セミナー効果を数量的にも増大させることの必要を考えさせられる問題であり、対策としてはセミナー参加中より本問題に係る各参加国の実情について説明、討論の機会を設けることで何らかの改善の参考とすることが出来るのではないかと思考する。

設問3-A~D今後の貿易振興(A)セミナーへの助言および要望

- 実施期間、時期、構成等についてはほぼ「現状のままで良い」意見が多く、さらに付加し得るならという条件で
  1. ○ 講義科目に「非関税障壁」「保護貿易主義とLDCの貿易」「特定品目の市場性の自由討議」等を挙げているが、これらは繰り返し提言され、その都度とりあげてきた科目もあり、今後セミナーの進行中から参加帰国研修員の意見を聴取し、多数の要望が確認された時点で全体構成に均衡した形で採用したい。
  2. ○ 見学に先に「各種フェア」「港湾施設」「商工会議所」「商社」「品質管理重点企業」「中小企業」の組み入れの提案がみられる。この殆どが現セミナーで実施中であるため「中小企業の見学」のみが課題として残される。

- 「中小企業」はかねてから要望の強い見学先であるが、実際には受け入れの実現が困難なため、近年は実施していない。しかしながら帰国後も日本の中小企業に対する強力な関心を持続している傾向を確認し、今後極力、実施の体制にすべきであると考慮した。『中小企業の貿易振興』の一環としての見学が実現し得れば最も効果的科目となるといえる。
- 3. ○ 各国固有の問題を取り上げ、集中的な討議の場とするセッションを設ける等して『TAILOR-MADE』のセミナーとすべきであるという意見は程度の差こそあれ、各国から提出されているが、本セミナーでは、集団コースの中で可能な限り各国固有の問題を取り上げるべく、カンントリー・レポートの時間を年々充実させてきた。今後も個々の国情を無視せず、また参加者全員が討議を通じて相互の問題を考察する機会を失うことの無いよう、困難ながらもバランスを保ったプログラムとして構成する必要がある。
- 4. フォローアップ事業について
  - 全員残らずフォローアップを望んでおり、殊にリフレッシュ・コースないし個別研修への参加希望が圧倒的多数を占めると言える。
  - 最新の経済、貿易に関する情報の送付を希望する意見もかなりの比重を占め、帰国後も日本に対し期待し、関心をもち続けていることが良く理解される。
  - 一昨年より経済広報センターに依頼し、定期的『JAPAN UPDATE』及び『ECONOMIC EYE』の送付承諾を得ているので、この問題に関しては今後の帰国研修員の意見を待ちたいと考える。

以上で帰国研修員およびその所属機関を対象とした貿易振興(A)セミナーへの評価、要望、各種のコメントの列記、分類を終るが、スタート以来20年という歳月が流れ、所在不明になっている帰国研修員がかなり居ることや、折角の助言もすでにセミナープログラムにおいて実現されている部分もあるなど、帰国研修員相互に環境、経験の相違が広がって居ることが印象的であり、現セミナーの終了時に開かれるエバリュエーション・ミーティングとは異なる観点からの意見に触れることが出来たことは大きな収穫であったと思われる。

多忙な職務の中で、時間を割いて面談し、現地セミナーに参加し、調査表を提出する等の協力を惜しまない帰国研修員の殆どが、日本に対してこよなく良い印象を持ち、詳細な点まで克明に記憶している実際にしっかりと認識し、セミナー実施にあたり研修員のニーズを念頭において、参加国の日本にたいする期待を裏切ることのないよう、誠心誠意実施を心掛けなければならないと固く決意した次第である。

## 2. 貿易振興(A)セミナーフォローアップ調査

調査表回収および現地セミナー参加状況等

国名	調査表回収	現地セミナー参加	個別面接実施
ネパール	8	5	8
インド	6	4	5
パキスタン	4	4	3
計	17	13	16

ネパールは帰国研修員全員がカトマンズ在住のため比較的容易に連絡し得た条件もあり、全体の数14名のうち所在不明等3名を除く11名全員が何らかの形で調査に協力した結果となる。

インドは総数22名のうち5名すでに引退し、1名死亡、3名所在不明となっており、さらにデリー以外に在住のものを除いた6名を対象として面談、セミナーを実施した。

パキスタンはカラチ、イスラマバードに半々に居住しているため、連絡可能者が少数であり、イスラマバードでのセミナーおよび面談時には4名のみが出席した。

3. 帰国研修員 異動状況

国名	研修員名	参加年度	参加時役職等	現職
ネパール	SHIVA S. RANA	1970	DIRECTOR, DEPARTMENT OF COMMERCE	JOINT SECRETARY, MINISTRY OF WATER RESOURCES
	RAJ BAHADUR CHIPALU	73	SECRETARY GENERAL, FEDERATION OF NEPALESE CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY	ADVISOR OF THE NEPALESE CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY
	YOGENDRA PURUSH	73	SECRETARY, FEDERATION OF NEPALESE CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY	MANAGING DIRECTOR, CHIEF EDITOR, MEDIA COMMUNICATION (P) LTD
	SAGAR MAN SINGH DANGOLE	75	OFFICER, TRADE PROMOTION CENTER	OFFICER, MINISTRY OF FINANCE
	MANGAL MAN SHRESTHA	76	DOCUMENTATION OFFICER, TRADE PROMOTION CENTER	SECTION OFFICER, DEPARTMENT OF LIVESTOCK AND ANIMAL HEALTH
	CHANDRA BAHADUR THAPA	77	ACTING DEPUTY DIRECTOR, DEPARTMENT OF TRADE AND COMMERCE	DEPUTY DIRECTOR, DEPARTMENT OF INDUSTRY
	PUSKER BHAKTA SHRESTHA	78	SECTION OFFICER, DEPARTMENT OF COMMERCE MINISTRY OF INDUSTRY AND COMMERCE	SECTION OFFICER, MINISTRY OF LABOR AND SOCIAL WELFARE
	MAHAMANGAL BAJRACHARYA	79	SECTION OFFICER, DEPARTMENT OF COMMERCE MINISTRY OF INDUSTRY AND COMMERCE	引退
	RAMESH BAHADUR CHIPALU	81	PROPRIETOR, CHIPALU TRADERS	変わらず
	GHANA S. GORKHALI	82	DEPUTY DIRECTOR, DEPARTMENT OF COMMERCE	変わらず
	UNESH PRASAD SHARMA DAHAL	83	SPECIAL OFFICER, MINISTRY OF COMMERCE AND SUPPLIES	MANAGER, OIL CORPORATION
	TEJ MUNI BAJRACHARYA	84	SECTION OFFICER, MINISTRY OF COMMERCE	DEPUTY DIRECTOR, MINISTRY OF GENERAL ADMINISTRATION
	RAM DAYAL YADAV	85	DEPUTY DIRECTOR, TRADE PROMOTION CENTER	変わらず
	NARENDRA BAHADUR BASNYAT	86	SECTION OFFICER, DEPARTMENT OF COMMERCE	変わらず

国名	研修員名	参加年度	参加時役職等	現職
インド	BENI KRISHNA SHARMA	1967		所在不明
	IDYA SUNDARESH	68	SECRETARY, BASIC CHEMICAL, PHARMACEUTICAL AND SOAPS EXPORT PROMOTIN COUNCIL	PRIVATE CONSULTANT
	MITRA SEN	69	MARKETING MANAGER, STATE TRADING CORPORATION OF INDIA	CHIEF MARKETING MANAGER, STATE TRADING CORPORATION OF INDIA
	CHANDER MOHAN	70	DEPUTY MARKETING MANAGER	引退
	BHASKAR LAXMAN	70	STATE TRADING CORPORATION OF INDIA	引退
	A. S. SETHI	70	JOINT GENERAL MANAGER, BANK OF BARODA	変わらず
	M. K. SRINIVASSAN	70	REGIONAL DIRECTOR, TEA BOARD	在エジプト, インド大使館
	K. K. DHIR	72	GENERAL MANAGER, MINERAL AND METALS TRADING CORP.	引退
	R. J. NAIDU	72	UNDER SECRETARY, MINISTRY OF FOREIGN TRADE	所在不明
	AMAR NATH	72	DEPUTY CHIEF CONTROLLER OF IMPORTS/EXPORTS	変わらず
	B. R. CHAVAN	72	MINISTRY OF FOREIGN TRADE	変わらず
	YOGINDER RAJ	72	JOINT DIVISIONAL MANAGER	変わらず
	A. RAMACHANDRAN	73	MINERAL AND METALS TRADING CORP.	引退
	KRISHAN LAL REKHI	73	UNDER SECRETARY, MINISTRY OF COMMERCE	JOINT SECRETARY, MINISTRY OF SURFACE TRANSPORT
				JOINT DIRECTOR (EXPORT PROMOTION)
			MINISTRY OF COMMERCE	引退
			DEPUTY CHIEF CONTROLLER	
			MINISTRY OF COMMERCE	
			EXPORT COMMISSIONER	MEMBER (TECHNICAL), CUSTOMS, EXCISE AND GOLD CONTROL APPELLATE TRIBUNAL
			MINISTRY OF COMMERCE	

国名	研修員名	参加 年度	参加時役職等	現職
インド	ASOKE K. CHAUDHURI	1976	DEPUTY DIRECTOR, MINISTRY OF COMMERCE	DIRECTOR, MINISTRY OF COMMERCE
	K. L. GUPTA	79	SPECIAL OFFICER, TEA BOARD, MINISTRY OF COMMERCE	ADDITIONAL RESIDENT COMMISSIONER U. P.
	B. B. BRUSHAN	80	GENERAL MANAGER, CENTRAL COTTAGE INDUSTRIES COOP.	引退
	S. P. KALA	83	DEPUTY DIRECTOR, MINISTRY OF COMMERCE	変わらず
	NARENDRA KUMAR SINGH	84	UNDER SECRETARY, MINISTRY OF COMMERCE	引退
	RAHUL DEV SHARMA	85	SECRETARY, SPORTS GOODS EXPORT PROMOTION COUNCIL	死亡
	ROMESH CHANDER SACHDEVA	86	JOINT DIRECTOR, DEPARTMENT OF ELECTRONICS	変わらず
	K. JAGADEES	86	DEPUTY DIRECTOR, THE MARINE PRODUCTS EXPORT DEVELOPMENT AUTHORITY	変わらず

国名	研修員名	参加年度	参加時役職等	現職
パキスタン	AMANUR UR REHMAN	1967	DEPUTY DIRECTOR, MINISTRY OF INDUSTRY	JOINT SECRETARY, MINISTRY OF DEFENCE
	MIMD. MONSOOR KAZIM	68	DEPUTY DIRECTOR-GENERAL, MINISTRY OF ECONOMIC AFFAIRS	SECRETARY, ELECTION COMMITTEE
	MIRZA A. M. ABDUL HYE	70	SECTION OFFICER, MINISTRY OF COMMERCE	所在不明
	M. SAEEGULLAH	70	DEPUTY DIRECTOR, MINISTRY OF INDUSTRY	"
	TAJ MOHAMMAD SAMO	72	ASSISTANT CHIEF, MINISTRY OF FINANCE	DEPUTY SECRETARY, MINISTRY OF INDUSTRY
	SYED NAZIM UDDIN	72	RESEARCH OFFICER, MINISTRY OF COMMERCE	所在不明
	MOHAMMAD ASLAM KHAN	72	STAFF, MINISTRY OF COMMERCE	DIRECTOR-GENERAL, MINISTRY OF COMMERCE
	MORHAMMAD LATIF	74	GENERAL MANAGER, TRADE CORPORATION OF PAKISTAN	所在不明
	KAMAL AFSAR	77	MANAGER, PAKISTAN RICE EXPORT CORPORATION	JOINT SECRETARY, MINISTRY OF COMMERCE
	MARHUM RAZA	77	DEPUTY DIRECTOR, MINISTRY OF COMMERCE	所在不明
	MUZAFAR HUSSAIN SOOMRO	78	DIRECTOR, MINISTRY OF COMMERCE	所在不明
	ASLAM SIDDIQUI	78	MANAGER, PAKISTAN RICE EXPORT CORPORATION	所在不明
	MIRMO YUNUS KHAN	79	DEPUTY SECRETARY, MINISTRY OF COMMERCE	JOINT SECRETARY, MINISTRY OF FINANCE
	IJAZ AHMAD	82	JOINT SECRETARY, MINISTRY OF COMMERCE	ADDITIONAL SECRETARY, MINISTRY OF COMMERCE
	NASIM QURESHI	83	DEPUTY SECRETARY, MINISTRY OF COMMERCE	変わらず
MUKHTAR HAIDER SHAH	85	SECTION OFFICER, MINISTRY OF COMMERCE	DEPUTY SECRETARY, MINISTRY OF FINANCE	





P68 (APPLICATIO OF JAPANESE EXPERIENCE FOR THE UNDER-DEVELOPED COUNTRIES WAS OF SUBSTANTIAL BENEFIT.)

P68 (THE JAPANESE DEVELOPMENT AND ECONOMIC GROWTH SERVES AS A MODEL FOR ALL DEVELOPING COUNTRIES. FIRST HAND KNOWLEDGE AND PERSONAL EXPERIENCE WAS GREATLY BENEFICIAL IN ASSUMING PLANS.)

C INTERNATIONAL RELATIONS BENEFICIAL TO YOURSELF

N77 N78 N79 I75 169 N72 N76 N81 N83 169 I83 P83  
I86 P68 P72 P85 N85

" TO COLLEAGUES

169 N72 N79 N83 N85 I83

" TO YOUR ORGANIZATION

P83

IF ANY, DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY.

P68 (BOTH MY ORGANIZATION AND MYSELF BENEFITED BY DEVELOPING CONTACTS AT THE RIGHT LEVEL.)

P68 (CONTACTS ESTABLISHED DURING THE SEMINAR CONFIRMED AT PERSONAL AND OFFICIAL LEVEL

WHICH ARE HELPFUL IN MY WORK.)

D ECONOMIC COOPERATION IN SOUTH WEST ASIAN COUNTRIES BENEFICIAL TO YOURSELF

N72 N85 N77 I75 N78 I86 P68 P72 N79 N83 169 I83

" TO COLLEAGUES

P85

169 N79 N83 I83

" TO YOUR ORGANIZATION

P85

169 N79 N83 N76 I83

IF ANY, DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY.

P68 (THE SEMINAR PROVIDED A COMMON FORUM TO DISCUSS INTERNATIONAL COOPERATION)

BJ PROGRAMMES

A LECTURES	BENEFICIAL TO YOURSELF	169	N72 N77 N78 N83	N76	183			
		175	N85 179 P68 P83					
		P85						
	" TO COLLEAGUES	169	N77 N79 P85	183				
		169	N79 185 P83					
	" TO YOUR ORGANIZATION							
B	IF ANY, DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY. THE LECTURES WERE OF HIGH STANDARD AND THE TRAINING STAFF DID VERY WELL. J							
8	REPORT PRESENTATION AND ROUND TABLE DISCUSSION	175	N72 N76 N77 N78	189	183 P83			
			P88 N79 N81 N83 N85 P85					
		175	N72 N78 N79 N83	183				
	" TO COLLEAGUES							
	" TO YOUR ORGANIZATION							
P88	IF ANY, DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY. THE WINDING UP DISCUSSION AND THE COUNTRY WISE DISCUSSION WERE OF CONSIDERABLE BENEFIT. J							
P83	I GAINED A LOT OF KNOWLEDGE REGARDING OTHER DEVELOPING COUNTRIES. THEIR PROBLEMS AND MEASURES TO PROMOTE TRADE. J							
C	VISIT TO VARIOUS ORGANIZATIONS	175	N72 N83 N85 P72	N76	N77 N78			
	" TO COLLEAGUES							
169								

TO YOUR ORGANIZATION	179	169	N72 N79 N85 P85	175	N76 N83	N77 N78 183
IF ANY, DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY.						
THESE VISITS GAVE A CHANCE TO GET ACQUAINTED WITH JAPAN'S TECHNOLOGICAL DEVELOPMENT.						
D MARKETING RESEARCH		N79 179	N81	169	N77 N78 N83 N85	183 P88
BENEFICIAL TO YOURSELF				175	186 P72 P85	
" TO COLLEAGUES	179		N77 N79 N85 169 P85	175	N78 N83	183
" TO YOUR ORGANIZATION	179	169	N72 N79	175	N76 N77 N78 N83	183
IF ANY, DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY.				N85	186 P72 P85	
P68 I'VE LEARNED A LOT ABOUT MARKETING RESEARCH.						
E OTHERS						
BENEFICIAL TO YOURSELF			N81 179 186	175	N72 N77 N78 N83	169 183
" TO COLLEAGUES	N85	169 179	N77		N85 P68 P85	
" TO YOUR ORGANIZATION	N85	169 179		175	N72 N78 N83	183
IF ANY, DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY.				P68	P85	
THE LECTURES, THE DISCUSSIONS, THE VISITS TO FACTORIES, ORGANIZATIONS AND WTC WERE ALL VERY BENEFICIAL. ESPECIALLY, AS WELL AS PUT TOGETHER. I HAD A PRACTICAL				175	N72 N76 N77 N78	183
EXPOSITION TO HOW SMALL OUR WORLD WAS AND HOW TRADE COOPERATION ALL AROUND COULD PROMOTE UNIVERSAL BETTERMENT.				N83	P68 P85	
MARKET RESEARCH CONDUCTED AND VISITS UNDERTAKEN FOUND TO BE OF VERY MUCH USEFUL.						
I FEEL THE SUBJECTS FOR THE SEMINAR WERE TOTALLY COVERED AND ORGANIZED EXTREMELY WELL.						
THE SEMINAR, AS A WHOLE WAS BENEFICIAL TO ME AND ALL OTHER IN MY ORGANIZATION. IT IMPROVED MY LEVEL OF EFFICIENCY.						

2) HOW DO YOU PUT AND INFORM YOUR EXPERIENCE TO PRACTICE USE?

PLEASE CHOOSE ANSWERS AND DESCRIBE IT CONCRETELY.

USE MATERIALS/REFERENCES DELIVERED AT THE SEMINAR.

{ P83 (THESE WERE OF VALUE FOR THEIR INFORMATION CONTENT AND PRODUCE IDENTIFICATION AND SOLVING METHODS.)

{ N76 (GIVEN LECTURES AND EXCHANGE OF IDEAS WITH PARTICIPANTS WAS QUITE USEFUL IN CONTEXT TO PERFORM MY DUTY THEN.

N77 N78 N79 N81 169 179 183 186

WRITE SOME REPORTS.

168 169 179 186 P68 P72 P85

HOLD A CONFERENCE TO TELL YOUR EXPERIENCE.

{ N85 (A FORMAL MEETING WAS HELD WITH ALL COLLEAGUES FROM MY ORGANIZATION WHERE MY EXPERIENCE ON OUR MARKETING CONCEPTS AND TECHNIQUES AS WELL AS JAPANESE

METHODS OF MANAGEMENT WERE DISSIMINATED TO THEM. THIS HAS HAD A POSITIVE IMPACT ON MY ORGANIZATION.)

{ 183 (WORKING OF JAPANESE TRADE WITH THE COOPERATION OF GOVERNMENT AND PUBLIC)

168 169 P85 186

START NEW BUSINESS

N81

OTHERS OR NONE

N79 (DESCRIBING THE TRANSPORTATION NETWORK, FOODING VARIETIES, ECONOMIC FOODING PLACES AND CUSTOMS)

169 (I ALSO USED MY EXPERIENCE WHEN I HELD AN UNO ASSIGNMENT ABROAD IN 1983.)

175 (MY JOB WAS TO SIMPLIFY EXPORT CONTROL AND EXPORT PROMOTION MECHANISMS AND I PUT THE EXPERIENCE GAINED THROUGH THE SEMINAR TO PRACTICAL USE IN DOING SO.)

3) IF PERSONAL CHANGE HAS OCCURRED IN YOUR JOB OR WORK BECAUSE YOU ATTENDED THE TRAINING AT JICA, PLEASE INDICATE:

NO CHANGE

N79 N85 P72 P83

YES, THERE IS/ARE.

N76 N77 N81 N83 168 169 175 179 183 P85

IF YES, PLEASE CHECK WHERE APPLICABLE :

N81 [NEW EXPERIENCE AND NEW KNOWLEDGE ENHANCE ONE'S COMPETENCE:]

- WORK CONDITIONS N76 N77 N78 179
- RESPONSIBILITY N72 N83 168 169
- PROSPECTS FOR THE FUTURE N83 168 169 183
- SALARY-RISE
- IN OBTAINING ANOTHER JOB
- CONTENTS OF WORK N72 N83
- PROFESSIONAL RECOGNITION 169 183
- INTERNATIONAL CONTACTS N72 169 P85

PLEASE EXPLAIN YOUR ANSWER (S) BRIEFLY:

N72 MANY NEW EXPERIENCES CONFIDENCE WHICH REFLECTS IN WORK. INTERNATIONAL CONTACT AS SELF EXPLAINED. J

169 I WAS SELECTED FOR FOREIGN POSTING AS BRANCH MANAGER OF OUR NEW BRANCH OFFICE AT SINGAPORE WHICH I SET UP IN 1970 AND REMAINED THERE TILL 1974. J

175 THE CHANGE IN JOB OCCURRED TWO YEARS AFTER MY RETURN FROM THE SEMINAR. BUT THE CHANGE WAS NOT BECAUSE OF THE TRAINING. IT WAS IN THE NORMAL COURSE OF POSTINGS AND TRANSFERS. J

P68 BEING A MEMBER OF THE CIVIL SERVICES, I CHANGED AND SHIFTED TO VARIOUS DEPARTMENTS. J

4) WHAT DO YOU CONSIDER TO BE THE MAIN OBSTACLES IN UTILIZING THAT YOU OBTAINED DURING THE SEMINAR?

CHECK NO MORE THAN 4 BOXES IN EACH ROW. BUT ADD AS MANY UNDER "OTHERS" AS YOU THINK APPROPRIATE.

LACK OF:

- TRAINED PERSONEL N72 N77 N78 I 68
- FUNDS N72 N77 N78 N79 N85 I68 186 P68 P83
- FOREIGN EXPERTS I 68
- RESEARCH FACILITIES N77 N79 I83 P68 P83
- CAREER PERSPECTIVE I79 P68
- FOREIGN CURRENCY
- SUPPORT OF SUPERVISOR
- TECHNICAL LITERATURE N79 P68 P83 P85
- MARKETS P83
- NATIONAL TRAINING INSTITUTES I 83
- TRANSPORT FACILITIES
- OTHERS

N72 (NO INITIATIVE ON PART OF JICA OR JAPAN AT ALL LEVELS.)

N79 (LANGUAGE PROBLEMS, PRACTICAL WORKING FACILITIES IN OFFICES LIKE LEARNING BY DOING, AFFILIATING THE PROBLEMS SOLVING APPROACH) FOR THE DEVELOPING COUNTRIES

VARIOUS CONSTRAINTS:

- ECONOMIC SITUATION N77 N78 N85 P68 P83 P85
- POOR MANAGEMENT N79 P68
- TOO MUCH FOREIGN INFLUENCE
- POLITICAL SITUATION P68

BRAIN DRAIN P83

PROMOTION STRUCTURE N79 179 183 P83

NO IN-SERVICE TRAINING N79 179 183 P83

ENERGY CRISIS

OTHERS N79

N72 (SITUATION OF COMPLETE ISOLATION FROM JICA ACTIVITIES BOTH IN JAPAN AND HERE. J

N79 (NO PROPER JOB IN PROPER PLACE, NO GUARANTEE OF JOB SECURITY. POSSIBILITY OF TRANSFER FROM ONE ORGANIZATION TO NON-CONCERNING ORGANIZATION.)

175 (THERE WERE NO OBSTACLES OR CONSTRAINTS. WHATEVER COULD BE ACHIEVED IN A SHORT SPAN OF TWO YEARS WAS ACHIEVED. THEREAFTER, I WAS TRANSFERRED TO

A DIFFERENT JOB. J

5) DID YOU OBTAIN SOME HUMAN NETWORK DURING THE SEMINAR?

YES N72 N76 N79 N85 168 169 183 186 P83 P85

NO N77 N78 N83 175 179 P68

IF YES, HOW DO YOU UTILIZE YOUR NETWORK. (CHOOSE SOME FOR EACH FOLLOWING ITEM AND GIVE THE REASON.)

MAINTAIN PERSONAL FRIENDSHIP. N72 N79 N85 168 169 183 186 P83 P85

P83 (APART FROM THE USUAL ACQUAINTANCES, IT IS EASY TO BECOME FRIENDS WITH PARTICIPANTS AND THE ORGANIZATIONS. THESE CONTACTS WERE FRUITFUL FOR

CONSULTATION AT ANY TIME. J

EXCHANGE INFORMATION'S ABOUT TRADE. N76 183 P83 P85 168

P83 (THIS HAS ALSO BECOME POSSIBLE BECAUSE OF PERSONAL CONTACTS. J

OPEN AN OFFICE IN JAPAN FOR TRADE. 169 186

START NEW BUSINESS. N72

OTHERS

186 (JOINT VENTURE PROGRAMS IN PRODUCTION PROCESSING AND MARKETING ARE UNDER PROPOSAL OPERATION. J



○ IF NO. DO YOU HAVE ANY SUGGESTIONS TO THE SEMINAR?

143 (AFTER 3 YEARS JAPANESE GOVERNMENT MAY CONSIDER TO CALL US IN JAPAN FOR REFRESHER SEMINAR AND MARKET RESEARCH.)

3. FOR THE FUTURE TRADE PROMOTION SEMINAR

A) DURATION AND SESSION

N72 (ABOUT A MONTH LESS) P72 (45 DAYS FOR EXECUTIVES AND MORE THAN 3 MONTHS FOR JUNIOR OFFICIALS)

N79 (4 MONTHS) N81 N83 N85 P83 (2 MONTHS) (増減) 183 186 (3 MONTHS)

N79 (IN BETWEEN SUMMER AND WINTER)

B) TOPICS OF THE LECTURES

N72 (COULD NOT BE SPECIFIC (15 YEARS OLD)) N83 (SHOULD BE MORE SPECIFIC)

N79 (WITH OPEN FLOOR DISCUSSION ON PROBLEMS OF UNDER DEVELOPING COUNTRIES ON FOREIGN TRADE. DECISION MAKING PROCESS IN FOREIGN TRADE)

P72 (JAPANESE TRADE SYSTEM, OPPORTUNITIES FOR IMPORT/EXPORT, JV OPPORTUNITIES IN DEVELOPING COUNTRIES)

N83 N85 183 186 (増減)で良い。

P83 (PROBLEMS FACED BY DEVELOPING COUNTRIES ESPECIALLY WITH REFERENCE TO GROWING PROTECTIONISM)

C) VISITING PLACES

N72 (LITTLE LESS) N79 (HISTORICAL PLACES, CULTURED HOUSE VISITS) N81 (MORE VISITS TO SMALLER BUSINESS HOUSES WITH TECHNOLOGY AND MARKETS MORE SUITABLE

TO NEPALESE REQUIREMENTS) 186 (TRADE FAIR) P83 (JAPANESE MULTINATIONAL ENTERPRISES AND GOVERNMENT OFFICIALS) 20 DISCUSSION)

N83 N85 183 (増減)で良い。

P72 (TRADE HOUSES, CHAMBERS, ASSOCIATIONS, TRADE INFORMATION CENTERS, WTC, JETRO, INSTITUTIONS FOR DESIGNING, QUALITY CONTROL)

N72 (AS IN Q-C) N79 (PORT-- ACKNOWLEDGING THE PROCEDURES OF CUSTOMS FORMALITIES ON EXIM BANKING--THE BANKING PROCEDURES ON I.C. BANK GUARANTEE. LOAN)

D) OBSERVATION TRIPS

183 (MAY BE INCREASED)

N83 N85 186 (増減)で良い。

E) OTHERS, IF ANY

N72 (LANGUAGE COMMUNICATION WAS A BIT DIFFICULT)

P72 (VILLAGE LIFE)

N77 (NOT POSSIBLE BECAUSE MY EMPLOYING AGENCY IS CHANGED)

N79 (JAPANESE FAMILIES FOR LODGING AND FOODING ARRANGEMENTS)

4. QUESTIONS ON THE FOLLOW-UP SERVICE FOR EX-PARTICIPANTS OF JICA

1) DO YOU WANT FOLLOW-UP AND AFTER-CARE SERVICES FOR EX-PARTICIPANTS OF JICA?

YES N72 N76 N77 N78 N79 N83 N85 168 169 179 183 186 P88 P83 P85

NO

IF YES, PLEASE CHOOSE THE KIND OF FOLLOW-UP SERVICE WHICH SEEMS THE MOST BENEFICIAL TO YOU. AND IF YOU CHOOSE OTHERS, PLEASE ADD AS MANY AS YOU THINK

APPROPRIATE.

EXPERT DISPATCHING N79 179

REFRESHING COURSE OR INDIVIDUAL TRAINING N72 N78 N79 N83 N85 168 169 183 P88 P83 P85

WRITTEN MATERIALS N72 N76 N77 N79 N83 N85 168 179 186 P88 P83

OTHERS

2) ANY REQUEST OR PROPOSALS TO JICA AND/OR THE WTCJ.

N72 (SHOULD LIKE TO BE INVITED TO LECTURE OR MANAGE)

179 (THE INFORMATION PARTICULARLY ABOUT TRADE PROMOTION AND TECHNOLOGY TRANSFER SHOULD CONTINUE TO FLOW THROUGH PRINTED MATERIAL.)

183 P83 (REFRESHING 3 TO 4 YEARS AFTER THE SEMINAR)

QUESTIONNAIRE TO THE ORGANIZATION WHICH EX-PARTICIPANTS OF THE SEMINAR ON TRADE PROMOTION WORK FOR

- 1 NAME OF ORGANIZATION--- 省略 社 N79 N81 183 社 株式会社  
 2 NUMBER OF EMPLOYEES: 21-N72 5000-N76 78-N77 35-N78 500-N83 107-N85 2600-169 20-179 424-186 1000-168 30-172

70 OFFICERS AND SUPPORTING STAFF-P83

3 TYPE OF ORGANIZATION:

FEDERAL GOVERNMENT DEPT----- N77 N78 175 183 P72 P83

STATE GOVERNMENT DEPT----- N76 N83 179

SEMI-GOVERNMENT AGENCY----- N85 169 186

GOVERNMENT-INTEREST CO.

PRIVATE COMPANY----- N72

OTHERS ----- P68 (AUTONOMOUS BODY)

4 NUMBER OF EMPLOYEES WHO HAVE SO FAR PARTICIPATED IN THE JICA'S TRAINING /SEMINAR PROGRAMS.

1-N72 179 186 P72 2-N85 169 6-P83 10-175 NOT APPLICABLE-178

5 WHAT PERCENTAGE DO THEY KEEP WORKING IN YOUR ORGANIZATION AFTER COMING BACK FROM JAPAN?

50%-N85 100%-169 175 P83 NOT APPLICABLE-175 179 P68

6 HOW DO YOU DEFINE THE TRAINING IN JAPAN FOR YOUR ORGANIZATION?

USEFUL-N72 186

BENEFICIAL-179 P83

VERY USEFUL-N76

EXTREMELY USEFUL-175

ENHANCE THE PRODUCTIVITY OF THE ORGANIZATION-N83

IT HAS PROVIDED ENOUGH EXPOSURE TO OUR OFFICERS IN UNDERSTANDING AND APPRECIATING JAPAN'S TRADE AND INDUSTRIAL DEVELOPMENT.

THIS, IN TURN, HAS HELPED US IN UTILIZING SOME OF THE RELEVANT EXPERIENCES OF JAPAN IMPROVE OUR SITUATION.-N85

VERY GOOD AND OF MUCH PRACTICAL USE-169

NOT APPLICABLE- P68

7 HOW ARE THE TRAINEES SELECTED?

NOMINATION-----N76 N77 N78 N83 N85 169 179 186 P83

EXAMINATION

INTERVIEW-----169

OTHERS ALL OF ABOVE DEPENDING THE NATURE AND REQUIREMENT OF TRAINING-N72

PLEASE DESCRIBE YOUR ANSWER BRIEFLY

THE SELECTION IS BY NOMINATION AFTER INTERVIEW AND THEN PROCESSED THROUGH MINISTRY OF COMMERCE-169

TRAINEES ARE SELECTED THROUGH SYSTEM OF NOMINATIONS BY THEIR RESPECTIVE SENIOR OFFICERS. -P83

8 ABOUT THE DEGREE OF BENEFIT DERIVED FROM THE TRAINING, PLEASE INDICATE THE APPROPRIATE ONE AND DESCRIBE IT BRIEFLY.

1: NO BENEFIT

2: LITTLE BENEFIT

3: BENEFICIAL

4: VERY BENEFICIAL

5: EXTREMELY BENEFICIAL

BENEFICIAL TO

COLLEAGUES

N72 N77 N85 169 179

P83

N76 N78 N83 186

175

BENEFICIAL TO

YOUR

ORGANIZATION

N85 169 179 P83

N76 N77 N78 N83

N72 175

186 P68

9 DO YOU TAKE INTO ACCOUNT TRAINING IN JAPAN WHEN CONSIDERING SPECIAL PAY INCREASE, PROMOTION OR POSTING?

	YES	NO
PAY INCREASE		N76 N77 N78 N85 169 175 179 P83
PROMOTION	N72 N83 N85 186	N76 N77 N78 169 175 179 P83
POSTING	N77 N78 169 179 186 P83	N76 N85 175

PLEASE STATE THE REASON(S) IN DETAIL.

N76 (FOR THE PERSONAL WORK EFFICIENCY)

N77 N78 (IN-SERVICE TRAINING WITHIN THE COUNTRY ONLY COUNTS FOR PROMOTION)

N85 AFTER OBTAINING TRAINING A CANDIDATE IS ENTITLED TO GET CERTAIN MARKS, WHICH INCREASES THE POSSIBILITY OF GETTING FAST PROMOTION WHENEVER

THERE IS VACANCY. J

179 (THE REQUIREMENT OF JOB)

186 KNOWLEDGE ACQUIRED THROUGH TRAINING WILL BE MORE USEFUL AND COULD BE MORE EFFECTIVE IN DISCHARGING HIS FUNCTIONS. J

P88 I NOT APPLICABLE-- (BEING A MEMBER OF CIVIL SERVICE, I CHANGED VARIOUS DEPARTMENTS. J

P83 POSTING IS OFTEN A CONSIDERATION BEFORE OR AFTER A TRAINING PROGRAMME WHICH IS TAKEN INTO CONSIDERATION AT THE TIME OF NOMINATIONS. J

10 DOES YOUR ORGANIZATION INTEND TO LET OTHER EMPLOYEES TAKE PART IN THE TRAINING IN JAPAN IN THE FUTURE?

YES	NO
-----	----

N72 N85 179 186 P83

IF THE ANSWER IS NO, PLEASE STATE THE REASON(S) IN DETAIL.

N76 (I DONT KNOW)

NOT APPLICABLE-- P68

11 ANY SUGGESTIONS TO SEMINAR ORGANIZATIONS IN JAPAN, JICA AND WTCJ FOR FURTHER IMPROVEMENT OF THE PROGRAMME.

172 CONTACTS AND COMMUNICATIONS CONSTANTLY AT THE INITIATIVE OF JICA AND WTCJ

176 (I HOPE TO GET REGULARLY PUBLISHED MATTER RELATING TRADE, AND I AM GETTING REGULARLY NEWSPAPERS ALSO.

I TAKE THIS OPPORTUNITY TO THANK JICA AND WTCJ. J

179 (THE PROGRAMME SHOULD BE TAILORED TO THE DEMAND OF THE PARTICIPATING COUNTRY. J

185 (THE PROGRAMMES ARE FORMULATED AND IMPLEMENTED IN THE RIGHT PERSPECTIVE. J

183 (IT WILL BE PREFERRED THAT THE OFFICERS ATTEND TRAINING COURSES RELATED COMMERCE AND TRADE IN WHICH THEY HAVE TO GO THROUGH SOME SORT OF

EXAMINATIONS AND ARE AWARDED DIPLOMA ON SUCCESSFUL COMPLETION OF THE TRAINING COURSES. J

(IT WILL BE ADVISABLE TO LOOK INTO THE STRUCTURE OF HONORARIA FOR THE TRAINING COURSES. J

#### IV ネパール・インド・パキスタンの貿易事情について

今回の巡回指導班は、訪問国の貿易事情の実態を把握し、今後のカリキュラム編成の参考に資することを目的のひとつとしている。貿易関係者とのインタビューを通じて、あるいは収集した資料等により、下記のような概要をとりまとめ報告する。

##### 1. ネパールの貿易事情

インドとの関係がネパール貿易にとって、最大の問題点である。数量や金額から見て、インドが最大の貿易相手国であり、その比重がきわめて大きい。しかし、通商関係の規模の問題にとどまらず、ネパール経済全体を規定する大きな要因となっている。政治的には、中国という大きな国家を背後にもっているため、インドとのバランスをとることも可能である。経済的には海港への運輸が実質的に、インド経由とならざるを得ないため、インド以外の諸国との交易も、少なからずインドとの関係に左右されがちである。

中国とはヒマラヤ山脈越えの交通路があり、バングラデシュとも東端部で国境を接しているとはいえ、これらの陸路は大量輸送には制約条件が多い。どうしても、インドの交通手段に依存せざるを得ないのである。たとえば、インドとパキスタンとの外交関係が悪化すると、いくらネパールがパキスタンとの交易に力を入れようとしても、実現性は乏しくなってしまうのである。

交易条件を決定する上で重要な為替レートも、インド通貨との関係で決まりがちである。ネパールは、1983年末に通貨バスケット制に移行したが、実質的にはネパール・ルピーをインド・ルピーにリンクして、他の交換性の高い通貨とはインド・ルピーの変動を基準にして、フロートさせてきた。このバスケット制移行後の2年間に、インド通貨は米ドルに対して、約16パーセント切り下げている。しかし、ネパール経済のインフレ率は、インドよりも高く、国内のインド・ルピー準備が低下した。このため、1985年11月30日にはさらに14.7パーセントの通貨が切り下げられた。

ネパール政府は、インドへの過剰な依存を極力少なくしようと努めている。少しずつではあるが、その成果もあらわれつつある。1986/87年会計年度（7月16日から翌年の7月15日）についてみると、総輸出の56パーセントがインド市場向けであり、総輸入額の40パーセントがインドから来る。これでも前年度に比べて、インドへの輸出は22.5パーセントも減少している。

近年の傾向として、インド以外の輸出市場に増えている品目は、既製服、羊毛のカーペットと豆類であり、前年度に比べて61.2パーセントも増えている。輸出品目の多様化、市場の多様化は、ネパール貿易政策の柱でもある。

輸入についても、同様の傾向がみられる。1985/86年度輸入額は、20パーセント成長したが、インドからの輸入額を見る限り、前年度が27.4パーセントも成長したのに、1.9パーセント増にとどまった。インド以外からの輸入増は39.6パーセントにも達したが、その主要な品目は、建設資材、化学肥料、石油製品などである。この結果、インドとの貿易赤字が19パーセント縮小したのに反して、全貿

易赤字は25.2パーセントも増えた。

政府は貿易赤字を少なくするため、次のような振興策を講じている。

1. 輸出金融の利子を14パーセントに固定する。輸出前の資金供与も、特定の品目について行う。特に海外への輸出に限って、特定期間の利子補給を行う。
2. 輸出商品に対して保税倉庫を用意する。輸出指向工業部門に、ネパール工業開発公社が、総投資額の10パーセントをふり向ける。貿易情報のネットワークを拡充する。
3. 所得税、物品税、売上税、輸入関税などを輸出振興のために軽減する措置をとる。首相を議長とする、国家輸出開発会議を設置し、国際市場での競争率を強化し、輸出を振興する。
4. ほとんどの輸出品目について、ライセンス制度を廃止する。原材料の輸入を拡大し、輸出産業の効率化をはかる。

ネパールの貿易振興には、陸地に囲まれた山岳国であるという地理的な条件から、日本のような海洋国家の経験はあまり参考にならない。むしろ、スイスのような山岳国が周囲の大国の利害にまき込まれることなく、いかにしてバランスのとれた貿易立国を実現したかを学ぶべきであろう。ネパール政府が、S A A R C（南アジア地域協力連合）の加盟国として、域内協力の拡充に力を入れているゆえんである。

日本との貿易関係でみると、1985年から86年にかけて若干の改善傾向がみられるとはいえ、ネパールの貿易赤字がつづいている。日本からの輸出が86年でも、6,540万ドルだったのに対し、日本の輸入はわずかに、160万ドルという大きな格差である。貿易赤字を補うはずの経済援助が、結果として結果上の赤字を大きくしてしまい、という逆説的な事情もある。今後、長期的に取り組まなければならない課題であろう。

第1表 ネパールの対外貿易

(単位：100万ルピー)

	対 イ ン ド			対インド以外			総 額		
	輸 出	輸 入	収 支	輸 出	輸 入	収 支	輸 出	輸 入	収 支
1981/82	994.4	2,280.9	-1,286.5	497.1	2,649.4	-2,152.3	1,491.5	4,930.3	-3,438.8
1982/83	843.3	2,499.6	-1,656.3	288.7	3,814.3	-3,525.6	1,132.0	6,313.9	-5,181.9
1983/84	1,160.7	3,058.0	-1,897.3	543.0	3,456.3	-2,913.1	1,703.9	6,514.3	-4,810.4
1984/85	1,601.7	3,895.8	-2,294.1	1,138.9	3,846.3	-2,707.4	2,740.6	3,078.0	-4,310.4
1985/86	1,241.1	3,970.9	-2,729.8	1,836.9	5,370.3	-4,533.4	7,742.1	9,341.2	-5,001.5

注) 輸出はFOB, 輸入はCIF.

出所) HMG, Economic Survey, 1986/87, p. 37



第2表 ネパールの主要輸出入品目および金額(通関統計)

(単位: 1,000ルピー)

	1981/82	1982/83	1983/84	1984/85	1985/86
輸 入	4,930,241	6,313,936	6,514,351	7,742,108	9,341,165
食料品・動物	619,185	924,679	728,419	782,878	971,079
タバコ・飲料	35,623	62,524	71,744	79,427	112,919
鉱物	142,557	206,274	266,171	424,497	392,950
鉱物性燃料	579,262	701,875	749,191	918,799	1,053,995
動植物油脂	64,287	66,326	78,529	122,725	101,936
化学品・薬品	599,225	645,983	698,421	907,960	1,170,246
製造業製品	1,555,520	1,936,765	1,801,881	2,370,908	2,759,470
機械・輸送機器	892,040	1,180,956	1,651,277	1,671,436	2,134,654
その他製造業製品	430,205	584,257	466,340	450,631	637,213
その他	12,337	4,297	2,428	6,847	6,707
輸 出	1,491,453	1,132,019	1,703,893	2,740,602	3,078,088
食料品・動物	735,899	327,712	584,138	992,055	835,625
タバコ・飲料	18,450	13,316	5,292	4,988	246
鉱物	397,256	336,377	372,697	486,836	412,870
鉱物性燃料	1,012	698	3,277	988	187
動植物油脂	43,955	42,165	67,607	57,094	61,263
化学品・薬品	1,538	1,755	6,301	1,193	2,470
製造業製品	225,361	357,323	581,620	649,073	899,941
機械・輸送機器	9,081	7,886	24,412	33,694	38,625
その他製造業製品	59,104	44,639	57,710	513,445	826,524
その他	797	148	839	1,226	337

(出所) Nepal Rastra Bank, Quarterly Economic Bulletin, 1987, No.3&amp;4, P. 44~50.

第3表 ネパールの国際収支

(単位: 100万ルピー)

	1981/82	1982/83	1983/84	1984/85	1985/86
1.貿易収支	-3,454.0	-1,597.0	-4,823.6	-5,022.4	-6,268.4
輸出(F.O.B)	1,496.0	1,135.8	1,709.9	2,746.4	3,085.6
輸入(C.I.F)	4,948.0	6,332.8	6,533.5	7,768.8	9,372.0
2.サービス(純)	1,378.0	1,634.9	1,406.8	1,392.0	1,555.2
旅行(受取)	841.5	844.2	561.0	710.3	1,048.3
投資収入(受取)	197.0	203.0	94.6	92.6	65.1
その他(受取)	1,254.0	1,474.6	1,924.8	1,898.2	2,354.3
3.移 転(純)	1,681.7	1,890.7	2,073.4	2,256.5	2,166.3
民間(受取)	477.1	549.7	614.1	681.1	781.7
政府グラント	1,157.0	1,315.0	1,381.2	1,503.5	1,341.9
インド消費税返還	40.3	8.6	59.5	71.8	77.4
その他	31.0	50.0	56.5	31.6	98.7
4.経常収支	-392.3	-1,671.4	-1,343.4	-1,373.9	-2,564.5
5.外国借款(純)	774.1	924.4	1,203.5	1,097.3	1,811.5
ローン	806.5	963.9	1,274.3	1,159.5	2,005.1
償 還	(-32.4)	(-39.5)	(-70.8)	(-62.2)	(-139.6)
6.その他資本収支	-119.7	72.0	13.9	-589.4	1,314.4
7.外貨準備増減 (一は増)	501.5	-675.0	-126.0	-866.0	-561.0

(出所) HMG, Economic Survey, 1986/87, p. 44.

## 2. インドの貿易事情

ネパールと違ってインドは大国である。単に人口や面積が大きいだけでなく、食糧や衣料のような基本的な生活資料をはじめ、マッチからジェット戦闘機に至るまではほぼ自給できる。学士号以上の学位を出す大学 (Colleges) の数が5千を越え、科学技術教育は国際的に高い水準にあり、多くの第三世界諸国から技術研修生や留学生を招いている。

このような事情から、インド経済に占める外国貿易の比重は高くなく、輸入額が国民総生産の1割にも達していない。1979年の第二次石油ショック後、インドの貿易収支は、急激に悪化し、1980/81年度 (会計年度は日本と同じ4月から3月) には、GNPの4.7パーセントを記録した。その後、国内での石油生産が向上し、1985/86年度には、1.6パーセントまで改善した。

しかしながら、将来の見通しは決して明るくない。国内石油生産の足踏み傾向、先進工業国における保護貿易政策の採用、IMFや他の金融機関から借り入れた資金の返済、先進国政府の経済援助予算の削減、海外で働くインド人からの送金の減少など、国際収支を悪化させる要因が重なっているからである。1985/86年度は、輸出額は5.7パーセント増加したにすぎないが、輸入額は15.1パーセントも増えた。

貿易収支の悪化を阻止すべく、インド政府は近年、輸出を促進し、輸入を抑制する政策を強力に推進している。さまざまな輸出奨励制度が拡充され、砂糖、食用油、化学肥料などの国内生産に力を入れ、輸入を少なくした。その結果、1986/87年度には、輸入額が9.2パーセントしか増加しなかったのに対して、輸出額が20.4パーセントも増加し、貿易赤字は前年度の795億ルピーから751億ルピー (暫定) まで縮小した。

輸出増の顕著な品目は、宝石、皮革製品、機械 (輸送機器を含む)、化学製品、棉花、カシューナッツおよび既製服である。インドの輸出相手国は、ほとんど全世界にひろがり、しかも特定の地域に大きく偏向していないのが特色である。1986/87年度についてみると下記の通りである。

アジア太平洋	30.43 %
西ヨーロッパ	24.75 %
アメリカ大陸	20.22 %
東ヨーロッパ	19.04 %
その他の地域	5.56 %

国別にみてもアメリカ合衆国とソ連邦とに対して、ほぼ同額の輸出 (約18パーセント) を行っている、という点でもインドの独自の外交政策を反映している。日本市場への輸出は、10.7パーセントである。

インドの輸入品目は、機械類の比重が高く、4分の1強を占めている。次いで石油や金属鉱石、鉄製品、加工用宝石、化学製品などがつづいている。

輸入相手国は、西ヨーロッパ (38パーセント) とアジア太平洋地域 (36パーセント) だけで、全体の4分の3を占めている。残りの地域で大きいのは、アメリカ合衆国 (9.8パーセント) とソ連邦

(5.3パーセント)である。日本は、最大の輸入相手国であり、全体の12.7パーセントに達した。輸出先と違って、輸入相手国が、このような先進工業国に偏っているのは、工業製品の輸入が中心となっているからである。

貿易収支を改善するためにインド政府が採用している、輸出振興政策は次のとおりである。

- 1) 輸出手続きの簡素化と自由化。
- 2) インド国内に存在しない生産技術の導入や機械設備の輸入自由化。
- 3) 国際的な競争力のある価格で輸出加工業に原材料を供給すること。
- 4) 加工品の輸出については、間接税を払戻しすること。
- 5) 紅茶輸出に関する物品税の免除。
- 6) 輸出関税の払戻し。
- 7) 輸出業者が長期的な経営計画を立てられるよう、貿易政策の枠組みを固定する。

これらの政策を実施するため、商業省を中心に、貿易振興制度や諸組織がつくられている。紅茶、コーヒー、ゴム、タバコおよび香料の伝統的輸出農産物については、それぞれの商品別団体(Commodity Board)が、輸出についての企画や調整を行っている。これ以外の商品については(とくに工業製品)、品目ごとに輸出推進協議会(Export Promotion Council)が設けられ、商業省との連絡機関となっている。これらの協議会の連合組織が、輸出促進のためコンサルタント業務を行っている。

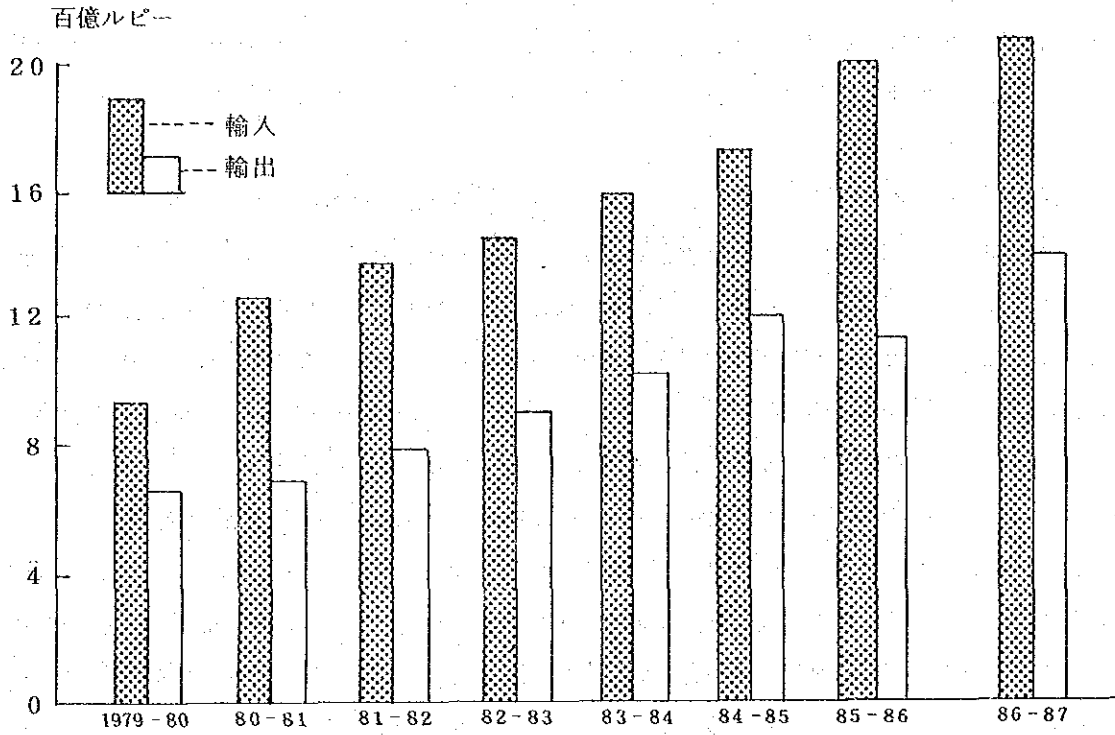
インド政府は中小企業による輸出(手工芸品等)を援助するため、貿易開発局(Trade Development Authority)を設立し、さまざまな貿易情報を提供している。主要な輸出品目である冷凍エビとイカについては、特に海産物輸出開発局をケーララ州のコーチンに置き、品質の向上に力を入れている。海外では最大の輸出市場である東京に事務所を開き、輸出の拡大に努めている。このほか全国の6カ所に工業製品の自由貿易地区を設定し、輸出加工業の育成を行っている。

日本との貿易は、1980年まで常にインド側の輸出超過であった。鉄鉱石、冷凍エビおよびダイヤモンドが、主要な輸出品目である。日本の鉄鋼業が斜陽化しつつあるため、インド鉄鋼石の輸出増はあまり期待できない。冷凍エビも、1985年まで日本市場への最大供給者であったが、86年と87年とは台湾エビにその地位を譲っている。

1981年以降、インドの貿易自由化が進展すると、日本との貿易は輸入超過に転換した。自動車生産部門での合弁事業など、日本の民間直接投資が進むとともに、機械設備等の輸入も増え、インド側の赤字が拡大している。1986年についてみると、インドの輸入20.99億ドルに対して、輸出は12.97億ドルにすぎない。インドの貿易関係者は、既製服や電子機械部品など、製品もしくは半製品の輸出拡大をめざしている。

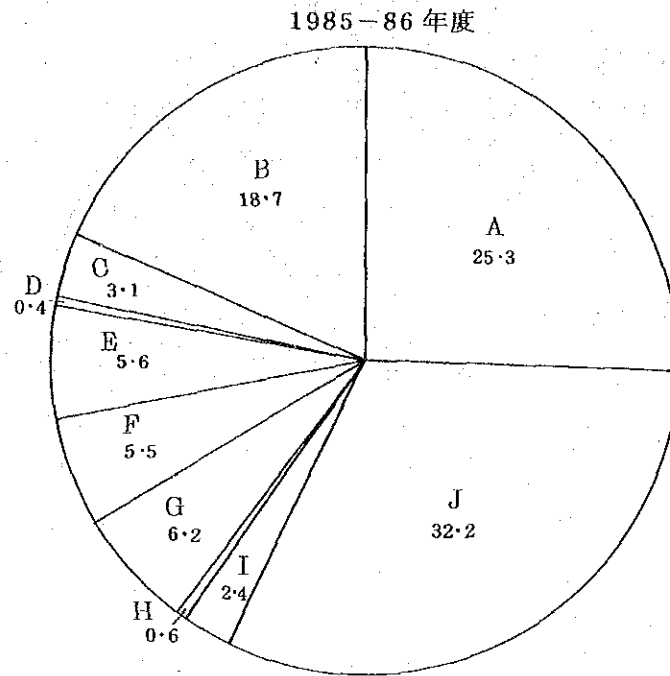
日本との貿易収支の均衡を回復することは容易ではないので、赤字の増大傾向を抑制することが当面の課題となっている。日本との貿易赤字を補うために、南アジアの周辺諸国への輸出ドライブがかかったり、他の第三世界諸国への輸出に力を入れたりすると、その分だけ南側諸国間の地域経済協力に影響を及ぼす恐れがある。インドを盟主とする域内協力の前途は多難である。

第1図 インドの対外貿易



出所) Govt. of India, Economic Survey, 1986-87, p. 88.

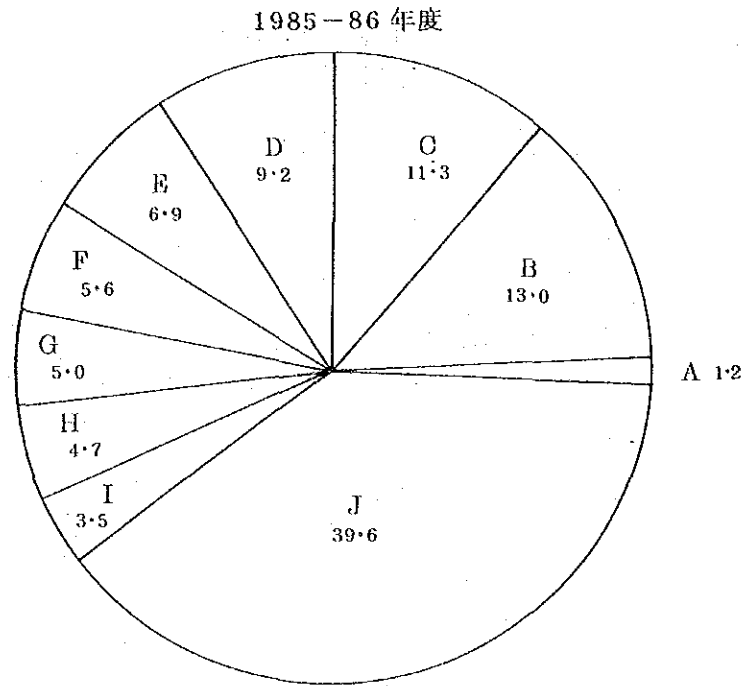
第2図 インドの主要輸入品目 (パーセント)



- A : 石油製品
- B : 機械等の資本財
- C : 食料油
- D : 穀物
- E : 宝石類
- F : 化学肥料
- G : 鉄製品
- H : 薬品などの化学製品
- I : 非鉄金属
- J : その他

出所) Govt. of India, Economic Survey, 1986-87, p.93.

第3図 インドの主要輸出品目 (パーセント)



- A : 原油
- B : 宝石類
- C : コーヒー, カジュナット, 原綿等の農産物(8品目)
- D : 既製服
- E : 機械類
- F : 紅茶
- G : 鉄鉱石
- H : 皮革製品
- I : 海産物
- J : その他

出所) Govt. of India, Economic Survey, 1986-87, p.97.

### 3. パキスタンの貿易事情

1951年以降今日まで、パキスタンの貿易収支が黒字になったのは、1972/73年度（会計年度は7月から6月）だけである。あとはすべて赤字を記録している。しかも、近年では貿易赤字額の方が、輸出額より多くなっている。巨額の貿易赤字にはほぼ匹敵する海外からの送金（主に西アジアへの出稼ぎ労働者による）が、パキスタンの国際収支の悪化に抗している。しかし、石油価格が低落しはじめると、産油国への出稼ぎによる送金増は期待できなくなっている。

1986/87年度の輸出は、前年にくらべて27.6パーセント増加した。原綿の輸出が減少してかわりに綿糸と既製服の輸出が著しく増加した。輸出代替工業化が進展したためである。繊維製品以外で輸出増に貢献したのは、皮革製品と冷凍エビなどの海産物である。他方、輸出の減少した品目は、米穀と石油製品の再輸出とである。

1985/86年度まで、第一の輸出相手国であった米国に代わって、86/87年度には日本への輸出が第1位になった。地域別にみると、アジアへの輸出が、30.4パーセントで第1位である。EC諸国が第2位で、30.3パーセントを占める。この両地域だけで、輸出の6割以上を受け入れていることになる。アジアが第1位であるが、隣国のインドへの輸出は極めて少ない。

過去の不幸な分離・独立と、その後の戦争とが、隣国相互の交易を困難にしているのである。パキスタンとインドとの敵対関係が改善されると、両国経済に寄与するだけでなく、南アジア地域全体の経済発展に好ましい効果を挙げることができよう。

1986/87年度の輸入は、924.3億ルピーで、1.63パーセント上昇したが、米ドルで換算すれば4.51ドルの減少になった。パキスタン・ルピーの切り下げのためである。品目別にみると、原材料や機械などの資本財の比率が高まっている。これに対して、消費財の輸入は、減少傾向にある。

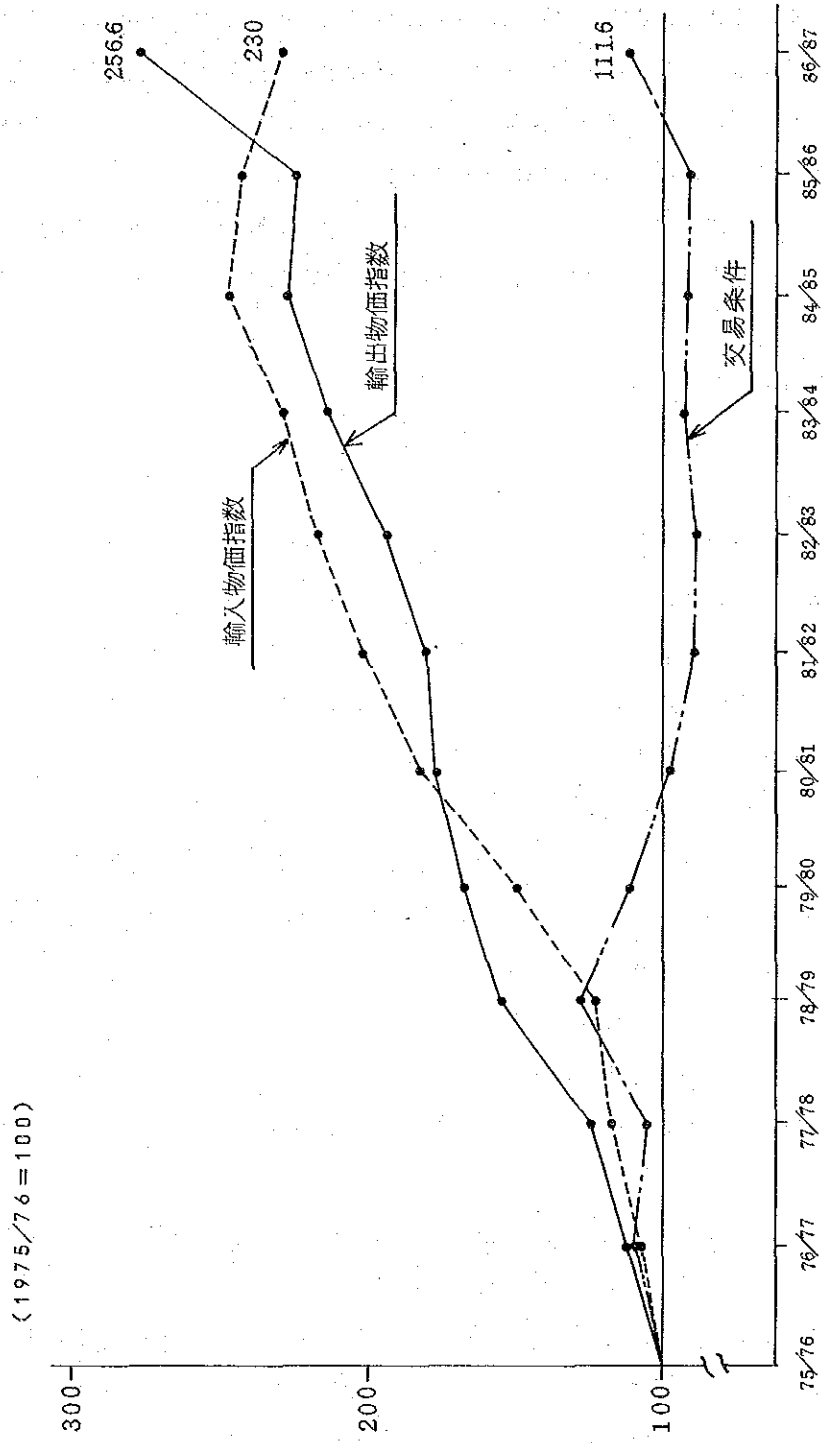
パキスタン政府は、対外貿易の均衡をめざとて、さまざまな輸出振興策を講じている。その主要なものを掲げると、下記のとおりである。

- 1) 輸出金融事業——主要な輸出品目に対して低利の融資を行う（6パーセント以下）。
- 2) 輸出信用保証事業——輸出業者が融資を受ける時の保証を、中央政府がパキスタン保険公社を通じて行う。
- 3) 輸出加工区事業——外国の直接投資を受け入れ、工業化を促進するため、輸出加工区がカラチに設定され、数々の免税措置がとられている。

これらの輸出振興策が効果を発揮したというより、むしろ石油価格の低落に助けられて、パキスタンの交易条件は、第4図に示すとおり、1986年から改善されている。交易条件の改善が、現実に輸出の拡大に結びつくためには、適切な商品とその市場が必要である。

パキスタンにとっての貿易相手国の第1位は日本であり、その上、最大の輸入超過国でもある。貿易赤字全体に占める対日貿易赤字は、第4表が示すように、拡大する傾向にある。1986/87年度には、3割近くにまで増大している。このため、日本市場への輸出を促進することは、最も重要な課題

第4図 輸出・輸入物価指数と交易条件



出所) ジェトロ・カラチ事務所



となりつつある。円貨の切り上げによる交易条件の改善も、日本市場をいっそう魅力的にしている。

しかし、日本への輸出を拡大する品目を見出すのは、容易ではない。綿糸と綿花だけで対日輸出の8割近くを占めているだけに、品目の多角化が望まれている。次に構成比の大きい冷凍エビと皮革製品も、インドをはじめとする多くの供給源と競争が激しく、急成長は期待できない。

良質の原綿を産出するため、加工度の高いアパレル商品へ輸出の比重を移す方向が注目されている。輸入代替工業化政策の延長線上でもある。パキスタンでは対日貿易の重要な活路であるとみられている。しかし、この分野でも、他の南アジア諸国との競合はさげがたい、と思われる。

このように検討すると、日本との貿易だけをとりあげても、南アジア諸国間の相互協力が不可欠であろう。日本市場をめぐる競争関係の激化よりも、日本との貿易関係を縮小して、その分だけ南アジア諸国相互の交易を拡大すべきである、との意見も表明されていた。その意味でも、発足してから日の浅い南アジア地域協力連合の果たすべき役割は大きい。

第4表 パキスタンの対外貿易

	ルピーベース (百万ルピー)		
	輸 出	輸 入	バ ラ ンス
76/77	11,294	23,012	▲ 11,718
(対日)	(913)	(3,219)	(▲ 2,379)
77/78	12,980	27,815	▲ 14,835
(対日)	(1,108)	(3,322)	(▲ 2,214)
78/79	16,925	36,388	▲ 19,463
(対日)	(1,670)	(4,149)	(▲ 2,479)
79/80	23,410	46,929	▲ 23,519
(対日)	(1,813)	(5,422)	(▲ 3,609)
80/81	29,280	53,544	▲ 24,264
(対日)	(1,877)	(6,188)	(▲ 4,311)
81/82	26,270	59,482	▲ 33,212
(対日)	(2,222)	(7,346)	(▲ 5,124)
82/83	34,442	68,151	▲ 33,709
(対日)	(2,819)	(9,128)	(▲ 6,309)
83/84	37,339	76,707	▲ 39,368
(対日)	(3,210)	(10,957)	(▲ 7,747)
84/85	37,979	89,778	▲ 51,799
(対日)	(4,573)	(12,002)	(▲ 7,428)
85/86	49,592	90,946	▲ 41,354
(対日)	(4,746)	(13,518)	(▲ 8,772)
86/87	63,268	92,431	▲ 29,163
(対日)	(6,882)	(15,145)	(▲ 8,263)

出所) ジェトロ・カラチ事務所

第5表 パキスタンの主要輸出品目

(金額：百万ルピー)  
 構成比：％  
 伸率：％

品目	84/85			85/86			86/87		
	金額	構成比	伸率	金額	構成比	伸率	金額	構成比	伸率
綿花	4,368	11.5	46.5	8,291	16.7	89.8	7,676	12.1	△7.4
米	3,339	8.8	△41.3	5,527	11.1	65.5	5,053	8.0	△8.6
綿布	4,638	12.2	△4.5	5,083	10.2	9.6	5,931	9.4	16.7
グレイ	2,327	6.1	20.1	2,162	4.4	△7.1	2,197	3.5	1.6
プリント	947	2.5	3.7	1,238	2.5	30.7	1,893	3.0	52.9
シーチング(ブリーチ)	245	0.7	105.9	480	1.0	95.9	673	1.1	40.2
ドリル・ジーンズ	24	0.1	0	41	0.1	70.8	98	0.2	39.0
キャンバス(防水)	147	0.4	△67.8	174	0.4	18.4	154	0.2	△11.5
綿糸	3,974	10.5	35.6	4,511	9.1	13.5	8,709	13.8	93.1
グレイ(coarse)	1,379	3.6	35.1	1,559	3.1	13.1	4,044	6.4	159.4
"(medium)	2,245	5.9	64.7	2,553	5.2	13.7	4,094	6.5	60.4
繊維製衣類	2,013	5.3	△8.2	3,331	6.7	65.5	6,098	9.6	83.1
女子用外衣	797	2.1	△15.0	1,182	2.4	48.3	2,363	3.7	99.1
紳士・子供用シャツ	729	1.9	△21.0	1,377	2.8	88.9	2,242	3.5	62.8
皮革	2,325	6.1	18.0	2,900	5.8	24.7	4,079	6.4	40.7
牛	669	1.8	36.3	1,011	2.0	51.1	1,502	2.4	48.6
水牛	429	1.1	19.2	437	0.9	1.9	835	1.3	91.1
羊	351	0.9	22.7	422	0.9	20.2	433	0.7	2.6
山羊	834	2.2	26.9	992	2.0	18.9	1,295	2.0	30.5
カーペット	2,031	5.3	12.6	2,693	5.4	32.6	3,432	5.4	27.8
繊維製品(タオルを除く)	1,216	3.2	△19.6	2,297	4.6	88.9	2,999	4.7	30.6
魚類・魚類調整品	1,231	3.2	22.2	1,335	2.7	8.4	1,930	3.1	44.6
魚	210	0.6	△31.4	280	0.6	33.3	370	0.6	32.1
えび	986	2.6	△17.4	1,013	2.0	2.8	1,477	2.3	45.8
皮製衣類	739	1.9	66.8	1,263	2.5	70.9	1,762	2.8	39.5
タオル	757	2.0	20.5	1,091	2.2	44.0	1,441	2.3	32.1
編物製品	649	1.7	△14.3	883	1.8	36.1	1,661	2.6	88.1
尿素	1,291	3.4	36.3	862	1.7	△33.2	0	-	-
外科用機器	774	2.0	80.0	842	1.7	8.8	956	1.5	13.4
合成繊維織物	636	1.7	△56.2	802	1.6	26.0	2,698	4.3	236.5
スポーツ用品	674	1.8	1.3	787	1.6	16.8	1,000	1.6	27.2
野菜・果物及び調整品	580	1.5	7.8	676	1.4	16.6	738	1.2	9.3
石油製品	525	1.4	△3.1	507	1.0	△3.4	444	0.7	△12.5
トップナフサ	521	1.4	41.6	451	0.9	△13.4	252	0.4	△44.1
ターポリン・キャンバス製品	760	2.0	△11.8	501	1.0	△34.1	402	0.6	△19.8
ターポリン	282	0.7	6.4	175	0.4	△37.9	123	0.2	△29.7
テント	470	1.2	△15.9	323	0.7	△31.3	274	0.4	△15.1
糖みつ	354	0.9	△36.7	477	1.0	34.8	421	0.7	△11.8
グワー・グワー製品	341	0.9	6.2	444	0.9	30.2	582	0.9	31.0
羊毛	261	0.7	52.6	274	0.5	4.9	315	0.5	14.9
はきもの	248	0.7	15.9	248	0.5	△0.2	281	0.4	13.6
たばこ・たばこ製品	159	0.4	11.3	195	0.4	23.2	291	0.3	12.1
合計(含その他)	37,979	100	1.7	49,592	100	30.6	63,268	100	27.6

(出所) Govt. of Pakistan, The State of Pakistan's Trade, 1986-87

第6表 パキスタンの主要輸入品目

(金額：百万ルピー)  
 構成比：％  
 伸率：％

品 目	84/85			85/86			86/87		
	金額	構成比	伸率	金額	構成比	伸率	金額	構成比	伸率
機 械 類	15,914	17.7	20.4	18,070	19.9	13.5	18,752	20.3	3.8
発 電 機 器	2,826	3.2	115.8	2,738	3.0	3.1	2,282	2.5	△17.7
農 機 具	203	0.2	133.3	232	0.3	14.3	482	0.5	107.8
ト ラ ク タ ー	1,688	1.9	△21.1	1,353	1.5	△19.9	1,140	1.2	△15.7
織 維・皮 革 機 械	1,393	1.6	39.7	1,698	1.9	21.9	2,034	2.2	19.8
建 設・欽 山 機 械	1,275	1.4	99.8	1,779	2.0	39.5	1,755	1.9	△ 1.3
金 属 工 作 機 械	291	0.3	24.9	674	0.7	131.6	491	0.5	△27.1
事 務 機・コ ン ピ ュ ー タ ー	345	0.4	50.0	460	0.5	33.3	578	0.6	25.7
通 信 機 器	1,018	1.1	50.8	1,449	1.6	42.3	2,073	2.2	43.1
石 油 類	21,763	24.2	13.6	16,775	18.5	△22.9	13,977	15.1	△16.7
原 油	14,375	16.0	18.3	10,640	11.7	△26.0	7,083	7.7	△33.4
灯 油	1,920	2.1	27.1	1,758	1.9	△ 8.4	1,526	1.7	△13.2
デ ィ ー ゼ ル オ イ ル	4,605	5.1	△ 1.8	3,870	4.3	△16.0	4,774	5.2	23.4
輸 送 機 器	7,816	8.7	23.9	9,178	10.1	17.4	8,791	9.5	△ 4.2
乗 用 車	1,335	1.5	△ 7.4	2,051	2.3	53.6	1,844	2.0	△10.1
バ ス	106	0.1	35.9	56	0.1	△47.2	164	0.2	192.9
ロ ー リ ー・ト ラ ッ ク	1,744	1.9	25.9	1,612	1.8	△ 7.6	1,962	2.1	21.7
航 空 機	2,090	2.3	171.8	1,494	1.6	△28.5	1,562	1.7	4.6
船 舶	890	1.0	5.7	1,435	1.6	61.2	421	0.5	△70.7
鉄 道 車 輛	284	0.3	108.8	991	1.1	248.9	1,270	1.4	28.2
自 動 二 輪 車	236	0.3	△15.4	285	0.3	20.8	235	0.3	△17.5
化 学 品	6,286	0.7	20.9	7,339	8.1	16.8	9,888	10.7	34.9
有 機 化 学 品	1,591	1.8	3.9	2,077	2.3	30.6	2,878	3.1	38.6
無 機 化 学 品	617	0.7	15.3	702	0.8	13.8	959	1.0	36.6
染・なめし・着 色 材	682	0.8	11.3	729	0.8	6.9	1,042	1.1	42.9
香 料	140	0.2	10.2	183	0.2	30.7	244	0.3	33.3
プ ラ ス チ ッ ク	1,432	1.6	21.3	1,524	1.7	6.4	2,082	2.3	36.6
食 用 油	6,777	7.6	4.4	6,023	6.6	△11.1	3,852	4.2	△36.0
鉄 鋼	3,205	3.6	3.7	3,332	3.7	4.0	3,577	3.9	7.4
紅 茶	3,507	3.9	36.6	2,175	2.4	△38.0	2,648	2.9	21.7
医 薬 品	1,974	2.2	9.7	2,245	2.5	13.8	2,638	2.9	17.1
肥 料	1,790	2.0	16.3	2,079	2.3	16.2	3,247	3.5	56.2
紙・紙 製 品	1,518	1.7	33.5	1,584	1.7	4.3	1,905	2.1	20.3
合 織・人 絹 糸	1,594	1.8	0.5	1,324	1.5	△16.9	1,629	1.8	23.0
合 成 織 維 綿	936	1.0	4.5	985	1.1	5.2	1,335	1.4	35.6
乳 児 用 ミ ル ク	643	0.7	19.7	750	0.8	16.6	625	0.7	△16.6
タ イ ヤ・チ ュ ー ブ	524	0.6	10.8	416	0.5	△20.7	521	0.6	25.4
合 計 ( 含 その他 )	89,778	100	17.0	90,946	100	1.3	92,431	100	1.6

(出所) Govt. of Pakistan, The State of Pakistan's Trade, 1986-87.

## V 研修員受け入れ事業およびフォローアップ事業の問題点 と今後の在り方について

### 1. 研修員受け入れ事業の課題について

ネパール、インドおよびパキスタンの順で帰国研修員に面談したり、関係省庁を訪問したりして、貿易研修セミナーに関する意見を聴取する機会を持った。全体としていえることは、同研修に参加した当事者にとってきわめて有益であり、帰国後の職務に直接的にも間接的にも利するところが多かったことである。同時に、セミナーの運営方法、日本側受入体制、研修科目の内容についても高い評価が与えられていた。貿易という、利害関係の対立しやすい、具体的かつ実務的な国際交流の場で、日本を知り、日本に対して好感を抱いて帰国した研修員の多いことを知り、人的交流の重要性をあらためて確信することができたのである。帰国研修員との持続的な連絡・交流を行うにあたって、現地の JICA 事務所の果たしている役割が大きい。限られた数の職員で長期にわたる連絡を維持することは容易ではなく、すぐれた現地スタッフに依存せざるをえない側面も少なくない。幸い今回訪れた 3ヶ国では、優秀な現地スタッフに恵まれ、帰国研修員との連絡が予期以上に円滑に行われていることを知った。これら 3ヶ国の事務所長をはじめ、在外職員の方々のご協力によってこの調査を完了することができたことを記すとともに、今後の改善に資するため若干の提言をあわせて行いたい。

#### (a) 民間部門からの参加

3国とも、対外貿易の大半は民間の私企業によって行われているため、商工会議所などの民間団体からは、私企業からの研修員をもっと多く受け入れてほしいという要望が強かった。貿易政策を所管している政府機関と民間の私企業との研修員配分比率に、どのような基準を適応するか、それぞれの派遣国の実情に応じて双方での見なおし作業が必要と思われる。

#### (b) 内陸国の貿易問題

ネパールのような内陸国の貿易問題は深刻である。とりわけ両側を地続きの国境線に巨大な大陸国家に接している国の交易は、日本のように海に囲まれ、輸出の物資を船送できる国の経験とはまったく異なっている。同様の条件の下にあるアフガニスタンやアフリカ諸国などとともに、内陸国に固有の貿易問題を研修する機会が必要であろう。そのためには、スイスの経験なども参照すべきであろう。

#### (c) 市場調査

日本への輸出拡大をはかめうとする貿易品目について、具体的な市場調査の体験を積むことは有益である。しかし、貿易政策の立案を担当してきた上級公務員にとっては苦痛であるという声もあった。研修員選定の基準を再考すべき事例であろう。

#### (d) 政府の役割

南アジア諸国では、混合経済の国が多く、食糧などの基礎的貿易品目は公営企業によって独占されている場合がある。私企業にまかされている場合でもさまざまな規制が行われている。政府の役

割をどのように限定すべきか、日本の公社公団による貿易の経験を学びたいという声があった。戦時中の戦時中の統制経済を比較的再検討することが、有益かもしれない分野である。

#### (F) 国の規模と研修員数

「モルディヴやネパールのような小国と、その数千倍から数十倍もの人口を有するインドのような大国とが同じ数の研修員を送るのは妥当でない。せめて3人位派遣できるようにしてほしい。」という希望がインドの関係者から出された。常にインドから複数の研修員を招くことはできないとしても、国の規模を配慮して何らかの方法で対処できないか、検討の余地があると思われる。

#### (g) 地方職員の派遣

貿易振興事業が地方の公社や公団の所管である場合、研修員選定手続きに数か月を要することがある、時間的に余裕がないと派遣をあきらめることもある、という声がある一方、数週間もあれば十分という反論もあった。海外研修に関する行政が、あまりに中央集権的になっていることの問題の方が大きく、行政改革が行われぬかぎり、募集枠が100%達成されることはないであろう。

#### (h) 帰国研修員への資料送付

世界貿易センターが帰国研修員へ送付している資料は、最新の知識を得るうえで非常に有用であるとの意見が多かった。帰国研修員が再度訪日する機会の乏しい現状に即して考えると、このような形のアフター・ケアもっと拡充すべきかもしれない。

#### (i) 研修期間の滞在費

パキスタンから派遣される研修員は、商業省の高級公務員が多く、向国政府の在外公館の事務官や公使に任命されることも少なくない。JICAから支給される滞在費では公務出張費の約3分の1にすぎないので、その差額をパキスタン政府が補填していた。今年度からこの補填制度が無くなるので、USAIDのような高額の滞在費を支給する機関の研修を希望する者が、増えているという説明があった。TICでの研修ならホテルのような余分の費用がかからないので、現行の滞在費でも十分間に合うという声もあった。貿易実務の担当者が派遣されるのなら、このような問題は発生しないであろう。

## 2. フォローアップ事業の課題について

3カ国とも帰国研修員の面接は、順調に進み所期の成果を上げることができた。チームのなかに研修担当者を含んでいたのも、その成果を今後の研修に活かすことができよう。カトマンドゥ、ニューデリーおよびイスラマバードで行ったセミナーは、改善の余地が大きい。帰国研修員中心のセミナーと、貿易振興に関係している人々に広く呼びかけるセミナーと、2回に分けて実施することも考えられる。また、インドのような大きい国では地方在住帰国研修員の便宜を考えて、ボンベイ、マドラスなどの主要地方都市で開催すべきであろう。

VI 資料 編

1. 貿易振興セミナー参加国及び研修員数 (S.63.3.現在)

No	年 度 FY	Name	'67		'68		'69		'70		'71		'72		'73		'74		'75		'76		'77		'78		'79		'80		'81		'82		'83		'84		'85		'86		'87		計																																																		
			1	2	3	4	5	6	7	特	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41		42	43	44	45	46	47	48	49	50																																									
	研修員合計																																																				11	12	19	24	19	18	19	16	20	20	6	14	11	7	15	11	23	11	13	14	12	16	15	9	11	14	19	13	15	13	16	14	15	13	16	12	13	14	9	15	12	13	602
	(参加国数合計)																																																				9	11	17	14	18	18	12	13	12	18	2	10	10	7	12	11	17	8	5	11	11	13	8	4	10	8	12	11	12	10	16	12	12	15	14	11	9	12	6	13	12	12	82
1	Bangladesh	バングラデッシュ	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15																																																
2	Bhutan	ブータン					2																																										2																																														
3	Brunei	ブルネイ					1																																										2																																														
4	Burma	ビルマ					2																																										8																																														
5	Hong Kong	香港					1																																										2																																														
6	India	インド	1	1	1	4	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23																																															
7	Indonesia	インドネシア	2	1	2	1	1	2	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	35																																															
8	Cambodia	カンボディア	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9																																																
9	Korea	韓国	1	1	1	1	1	2																																								16																																															
10	Laos	ラオス					1																																										1																																														
11	Malaysia	マレーシア	2				1	1	1																																							15																																															
12	Maldives	モルディブ																																															1																																														
13	Nepal	ネパール					1																																									15																																															
14	Pakistan	パキスタン	1	1	2		2	1																																							17																																																
15	Philippines	フィリピン	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25																																																	
16	Singapore	シンガポール					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7																																																
17	Sri Lanka	スリランカ	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16																																																
18	Taiwan	台湾	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4																																																
19	Thailand	タイ	1	1	1	3	1	3	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	37																																																
20	Vietnam	ベトナム	1				2	1																																								4																																															
	研修員小計																																																				9	8	23	7	5	17	8	18	6	5	6	6	5	11	13	8	9	9	7	13	11	10	7	8	7	3	6	6	254														
	(参加国数小計)																																																				7	7	8	13	7	5	10	7	10	6	4	6	6	8	5	6	9	3	6	8	10	6	7	4	2	5	5	20															

\*: UNCTAD/GATT # : OAS ▲ : Observer 特 : 特別セミナー  
.: 個別

No	年度 FY 名称 Name	'67	'68	'69	'70	'71	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		22
1	Argentina										#1			1	1	2	1	1	1	1	1	1	13	
2	Barbados								#1														1	
3	Bolivia							1									1	1	1	1	1		7	
4	Brazil						2	2	3	1	1	2	1	3	4	3	2	3	2	2	3	1	34	
5	Chile									1			1					1	1	1	1	1	6	
6	Colombia									1	1	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1		19	
7	Costa Rica											1	1	1			1	1	1	1		7		
8	Cuba																						1	
9	Dominican Rep. 共和国									1	1									1	1	1	10	
10	Ecuador									1	1			2	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
11	El Salvador																1	1	1				2	
12	Guatemala									1	1												4	
13	Guyana										1												1	
14	Haiti																1	1	1	1	1		3	
15	Honduras																				1	1	1	4
16	Jamaica																1	1					1	4
17	Mexico																			2	1		15	
18	Nicaragua																						2	
19	Panama																						1	11
20	Paraguay																						1	14
21	Peru																						1	22
22	Trinidad and Tobago																						3	
23	Uruguay																						1	5
24	Venezuela																						1	12
	研修員小計	1	2	2	8	4	6	9	6	7	11	4	11	11	2	15	13	14	13	12	14	11	209	
	(参加国数小計)	1	2	2	7	4	4	6	2	3	7	11	2	8	10	1	8	11	10	11	11	12	24	





No	年 度	FY	Name	'69	'70	'71	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	計
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
1	中		アフガニスタン	1	1	1					1	1											7
2			イラン	1	1	1	1	1			3	1			1								10
3	近		イラク	1	*1	1					1	1											8
4			シ.ムダン							1													1
5	東		クウェート			1																	1
6	海		シリア		*1																		1
7			トルコ					1					*1	1					1		2	1	8
8	域		アラブ首長国連邦							1													1
9			イエメン			*1																	1
			研 修 員 小 計	1	2	2	1	3	4		2	5	3	2	1	2			1		2	1	38
			( 参加国数小計 )	1	2	2	1	3	4		2	3	3	2	1	*2			1		1	1	9

No	年 度	FY	Name	'67	'68	'69	'70	'71	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	計
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1			F.S.of Micronesia																					4	
2			フィジー						1										1					3	
3	本		キリバス																					1	
4	平		ナウル						*1															1	
5			パラオ																					1	
6	洋		パプアニューギニア														1							6	
7	地		ソロモン群島															1						1	
8	域		トンガ																					1	
9			ツバル																					1	
10			バヌアツ																					2	
11			西サモア							1														2	
			研 修 員 小 計					1	2	1	1						1			1		6	9	23	
			( 参加国数小計 )					1	2	1	1						1			1		5	8	11	

2. 帰国研修員用アンケート

QUESTIONNAIRE

To the Ex-participants of the Seminar on Trade Promotion,  
Japan International Cooperation Agency (JICA) &  
World Trade Centre of Japan, Inc. (WTCJ)

We appreciate greatly your cooperation in answering the following  
questions. (Please write in block letters or typewrite.)

1. General Questions

1) Full Name :

2) Date of Birth :

3) Official Address :

4) Home Address :

5) Year of Participation to the seminar :

6) Employment Record

6.a. Post, Duty and Name of Organization before training in Japan :

Date: from            to            Post:

Duty:

Name of Organization:

6.b. Present Post, Duty and Name of Organization:

Date: from            to            Post:

Duty:

Name of Organization:

6.c. Type of Organizaion (please tick)

	Before training	Present
(i) Federal Government Dept.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(ii) State Government Dept.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(iii) Semi-Government Agency	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(iv) Government-Interest Co.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(v) Private Company	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(vi) Others	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

7) Please show a chart of your organization and indicate your section of position.

9) Other Training Courses and Seminars concerning Trade Promotion you have attended so far (in your country or abroad).

Period		Institute/Place	Type of programme
from	to		
from	to		
from	to		
from	to		

2. Questions on the Seminar

1) Is the themes that you was informed in this seminar beneficial ?  
Please evaluate each theme & programme by number.

A. Themes

1	2	3	4	5
-----	-----	-----	-----	-----
no benefit	little benefit	beneficial	very beneficial	extremely beneficial

Ⓐ Japan as a market

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

Ⓑ Explanation of Japanese experience

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

Ⓒ International relations

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

Ⓓ Economical cooperation in south west Asian countries

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

B. Programmes

1	2	3	4	5
-----	-----	-----	-----	-----
no benefit	little benefit	beneficial	very beneficial	extremely beneficial

Ⓐ Lectures

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

Ⓑ Report Presentation and Round-table Discussion

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

Ⓒ Visit various organizations

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

Ⓓ Marketing research

Beneficial to yourself                      Number (       )

Beneficial to colleagues                      Number (       )

Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

- ©Others
- Beneficial to yourself                      Number (       )
- Beneficial to colleagues                      Number (       )
- Beneficial to your organization              Number (       )

If any, describe your answer briefly.

2) How do you put and inform your experience to practice use ?  
Please choose answers and describe it concretely.

Use materials/references delivered at the seminar.

Write some reports.

Hold a conference to tell your experience.

Start new business

Others or None

3) If personal change has occurred in your job or work because  
you attended the training at JICA, please indicate:

No change.

Yes, there is / are.

If yes, please check where applicable :

work conditions

in obtaining another  
job

responsibility

contents of work

prospects for the future

professional recognition

salary-rise

international contacts

Please explain your answer(s) briefly:

- 4) What do you consider to be the main obstacles in utilizing the result that you obtained during the seminar ?  
Check no more than 4 boxes in each row. But add as many under "OTHERS" as you think appropriate.

Lack of:

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> trained personnel   | <input type="checkbox"/> support of supervisor        |
| <input type="checkbox"/> funds               | <input type="checkbox"/> technical literature         |
| <input type="checkbox"/> foreign experts     | <input type="checkbox"/> markets                      |
| <input type="checkbox"/> research facilities | <input type="checkbox"/> national training institutes |
| <input type="checkbox"/> career perspective  | <input type="checkbox"/> transport facilities         |
| <input type="checkbox"/> foreign currency    |   |
| <input type="checkbox"/> OTHERS              |   |

Various constraints:

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> economic situation         | <input type="checkbox"/> brain drain            |
| <input type="checkbox"/> poor management            | <input type="checkbox"/> promotion structure    |
| <input type="checkbox"/> too much foreign influence | <input type="checkbox"/> no in-service training |
| <input type="checkbox"/> political situation        | <input type="checkbox"/> energy crisis          |
| <input type="checkbox"/> OTHERS                     |   |

- 5) Did you obtain some human network during the seminar ?

- Yes  
 No

If yes, how do you utilize your network. (Choose some for each following item and give the reason.)

- maintain personal friendship.

- exchange informations about trade.

- open an office in Japan for trade

- start new business

- others

If no, do you have any suggestion to the seminar ?

3. For the future Trade Promotion Seminar

Attached is a copy of the Trade Promotion Seminar programme held in 1987. Please give your proposals/suggestions on the following item.

a) Duration and season

b) Topics of the lectures

c) Visiting places

d) Observation trips

e) Others, if any

4. Questions on the Follow-up Service for Ex-participants of JICA

1) Do you want follow-up and after-care service for ex-participants of JICA ?

Yes

No

If yes, please choose the kind of follow-up service which seems the most beneficial to you. And if you choose OTHERS, please add as many as you think appropriate.

Expert dispatching

Refreshing course or individual training

Written materials

OTHERS

2) Any request or proposals to JICA and/or the WTCJ.



21ST TRADE PROMOTION "B" SEMINAR, PROGRAM & ITINERARY

(September 24, 1987 - November 21, 1987)

GOVERNMENT OF JAPAN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Page 1

As of October 1, 1987

NO.	DATE	Holiday	MORNING (10:00 - 12:00)	LECTURER	AFTERNOON (14:00 - 16:00)	LECTURER
1.	Sept. 24	(Thu)	Arrival			
2.	25	(Fri)	Arrival			
3.	26	(Sat)	Arrival			
4.	27	(Sun)	Arrival			
5.	28	(Mon)	Orientation (1): at TIC			
6.	29	(Tue)	Orientation (2): at TIC			
7.	30	(Wed)	Orientation (3): at TIC			
8.	Oct 1	(Thu)	Program Meeting	Ms. N. Tobita		
9.	2	(Fri)	Lecture (1): Research Orientation - 1	Mr. H. Kimura	Lecture (2): International Marketing	Mr. H. Kimura
10.	3	(Sat)				
11.	4	(Sun)				
12.	5	(Mon)	Lecture (3): Opening a Market	Mr. H. Kimura	Independent Research - 1	
13.	6	(Tue)	Lecture (4): Trade Policy of Japan (Import)	Mr. K. Ogawa	Lecture (5) JETRO's Import Activity	Mr. M. Ogasawara
14.	7	(Wed)	Visit (1): Japan External Trade Organization		Independent Research - 2	
15.	8	(Thu)	Lecture (6): Marketing in Japan	Mr. H. Kimura	Independent Research - 3	
16.	9	(Fri)	Lecture (7): Foreign Businessman's Experience	Mr. A. Mehta	Lecture (8): Personnel Management and Decision Making in Japan	Dr. K. Nagata
17.	10	(Sat)				
18.	11	(Sun)				
19.	12	(Mon)	Lecture (9): Research Orientation - 2	Mr. H. Kimura	Self Study Video Film Show: Japanese Market, Distribution System	
20.	13	(Tue)	Independent Research - 4			
21.	14	(Wed)	Lecture (10): Sogo Shosha and Import	Mr. T. Watanabe	Independent Research - 5	
22.	15	(Thu)	Lecture (12): Japan and the Japanese (10:30 - 12:30)	Mr. K. Kobayashi	Lecture (11): Research Orientation - 3	Mr. H. Kimura
23.	16	(Fri)	Market-Research Report Making		Lecture (13): Department Store and Import	Mr. S. Ishihara
24.	17	(Sat)				
25.	18	(Sun)				
26.	19	(Mon)	Lecture (14): Small Business in Japan	Ms. H. Takahashi	Visit (2) & Lecture (15): Tokyo Chamber of Commerce & Industry	Mr. Y. Hashimoto
27.	20	(Tue)	Lecture (16): History of Japan's International Trade	Mr. T. Nakauchi	Self Study Video Film Show: Japanese Economy, People & Society (14:00 - 16:00)	
28.	21	(Wed)	Observation Trip 1-1 Visit (3): Ikeda Municipal Government		Trip Orientation (16:30 - 17:30)	
29.	22	(Thu)	Observation Trip 1-2 Visit (4): Snow Brand Products Co., Ltd.			
30.	23	(Fri)	Observation Trip 1-3 Visit (5): International Computer Graphics Symposium			
			Visit (6): Sapporo Electronics Center "Step Project"			

Reception at WTC (17:00 - 19:30)

- 15:00 Deadline of Report Submission -

NO.	DATE	Holiday	MORNING (10:00 - 12:00)	LECTURER	AFTERNOON (14:00 - 16:00)	LECTURER
31.	Oct 24	(Sat)	-			
32.	25	(Sun)	-			
33.	26	(Mon)	Lecture (17): The Role of MITI in Trade Promotion	Mr.	Lecture (18): The Export-Import Bank of Japan — Its Support for Overseas Investment	Mr. M. Agatz
34.	27	(Tue)	Lecture (19): Trade Insurance and Trade Promotion	Mr. S. Iuchi	Lecture (20): Economic Organization and Trade Promotion	Dr. H. Ichikawa
35.	28	(Wed)	Lecture (21): Sogo Shosha and Export Promotion	Mr. M. Kido	Lecture (22): Discussion with Japanese Business People	
36.	29	(Thu)	Visit (7): Port of Tokyo (Infrastructure for Trade) (9:30 - 16:00)			
37.	30	(Fri)	Thesis Making		- 14:00 Deadline of Submission of (THESIS) -	
38.	31	(Sat)	-			
39.	Nov 1	(Sun)	-			
40.	2	(Mon)	Lecture (23): Trade Relation of Japan and Latin American Countries	Mr. A. Hosono	Country Report (1): Argentina, Brazil, Mozambique	Mr. A. Hosono
41.	3	(Tue)	* National Holiday *			
42.	4	(Wed)	Visit (8): Nissan Motor Co., Ltd., Murayama Plant			
43.	5	(Thu)	Self Study Video Film Show: Japanese Labourers, Quality Control		Country Report (2): Chile, Uruguay, Venezuela	Mr. A. Hosono
44.	6	(Fri)	Country Report (3): Ecuador, Peru, Paraguay	Mr. A. Hosono	Country Report (4): Panama, Guatemala, Dominican Republic	Mr. A. Hosono
45.	7	(Sat)	-			
46.	8	(Sun)	-			
47.	9	(Mon)	Lecture (24): Market Research Observation	Mr. H. Kimura	Self Study Video Film Show: Quality Control, and Japanese Workers (14:00 - 16:00)	
48.	10	(Tue)	Observation Trip II-1 Visit (9): Atomic Bomb Museum		Trip Orientation (16:30 - 17:30)	
49.	11	(Wed)	Observation Trip II-2 Visit (10): Mitsubishi Heavy Industries, Mihara Plant		< Hiroshima >	
50.	12	(Thu)	Observation Trip II-3 Visit (11): Mydome Osaka Exhibition Center		< Mihara >	
			Visit (12): Matsushita Electric Industrial Co.		< Osaka >	
51.	13	(Fri)	Observation Trip II-4 Visit (13): Nishijin Textile Association		< Osaka >	
52.	14	(Sat)	-		< Kyoto >	
53.	15	(Sun)	-			
54.	16	(Mon)	Lecture (25): Thesis Observation	Mr. T. Nakauchi	Lecture (26): Sum Up Session - 1 With Business People	Dr. K. Nagata
55.	17	(Tue)	Lecture (27): Sum Up Session - 2 With University Professors	Dr. K. Hayashi	Preparation of the Final Report	
56.	18	(Wed)	Evaluation/Closing Evaluation Meeting (14:30 - 16:30)		Closing Ceremony and Farewell Meeting (17:00 - 19:00) at JICA	
57.	19	(Thu)	Departure			
58.	20	(Fri)	Departure			
59.	21	(Sat)	Departure			

## QUESTIONNAIRE

To the organizations which ex-participants of the Seminar on Trade Promotion work for, Japan International Cooperation Agency (JICA) & World Trade Centre of Japan, Inc. (WTCJ)

We appreciate greatly your cooperation in answering the following questions. (Please write in block letters or typewrite.)

1. Name of your organization:
  
2. Number of employees:
  
3. Type of organization (Please tick).

(i) Federal Government Dept.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(ii) State Government Dept.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(iii) Semi-Government Agency	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(iv) Government-Interest Co.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(v) Private Company	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(vi) Others	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
  
4. Number of employees who have so far participated in the JICA's training/ seminar programme.
  
5. What percentage do they keep working in your organization after coming back from Japan ?
  
6. How do you define the training in Japan for your organization ?
  
7. How are the trainees selected ?
  - Nomination
  - Examination
  - Interview
  - Others

Please describe your answer briefly

8. About the degree of benefit derived from the training, please indicate the appropriate one and describe it briefly.

1	2	3	4	5
-----	-----	-----	-----	-----
no benefit	little benefit	beneficial	very beneficial	extremely beneficial

Beneficial to colleagues                      Number (        )

Beneficial to your organization              Number (        )

9. Do you take into account training in Japan when considering special pay increase, promotion or posting ?

	Yes	No
Pay increase	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Promotion	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Posting	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Please state the reason(s) in detail.

10. Does your organization intend to let other employees take part in the training in Japan in the future ?

Yes  
 No

If the answer is No, please state the reason(s) in detail.

11. Any suggestions to seminar organizations in Japan, JICA and WTCJ for further improvement of the programme.

Thank you very much for your cooperation.

NAME:

Post:

DATE:

Signature

3. フォロー・アップ・セミナー用レジュメ

Japan's Economy and  
her Foreign Trade

NAKAMURA Hisashi

1st December, 1987

1, Meiji Restoration(1868) and Modernisation Policy since 1873

- a, Jiso kaisei --- registration of title deed, commoditisation of landed property, creation of land market
- b, Koseki seido --- liberalisation of migration, commoditisation of labour-power, creation of labour market
- c, Nippon ginko --- banknote as Japanese currency, commoditisation of creditability, creation of credit market

'Datsu-A-Ron'(how to get rid of Asia) <1885-1985>

'Datsu-No-Ron'(how to get rid of Agriculture) FUKUZAWA Yukichi

'Fukoku-kyohei'(wealth of nation and strength of armed forces)

'Wakon-yosai' (Japanese spirit equipped with Western technology)

colonialism -- militarism -- nationalism-- industrialism

centralisation of administrative machinery and educational institutions

2, Economic Growth and Kaisha Shakai (company society)

from Mura community to Kaisha community through industrialisation

- a, Shushin koyo (life-time employment), cradle to grave in the company-oriented community, "kaisha model" organisations in the public sector
- b, Nenko joretsu (seniority system), on-the-job training, labour market within the company, business groups with multi-layer subsidiaries
- c, Kigyo Kumiai (company-based labour union), a part of bottom management rather than industrial confrontation in major manufacturing factories  
long working hours (Japan 2,168hrs, USA 1,924hrs, BRD 1,659hrs---1985)

### 3, Problems of Contemporary Economic Structure

broad gap between competitive economic forces and quality of people's life

a, Sky-roketing land price (120,000,000 yen per 3.3m<sup>2</sup>-tsubo)

difficulties for improving housing conditions and urban life style

b, Employment of foreign labour (Oversaes factories or immigration ?)

Asian brides in rural households --2,450,000 yen to marriage broker

c, Internationalisation of Japanese Yen ( a key currency without military power ?), how to make use of huge trade surplus for the world economy

d, Enviromental destruction due to excessive import of goods in terms of volume (8 tons of goods imported for each ton of export from Japan)

### 4, A Choice of Futures

three scenarios for Japanse economy in 1990s

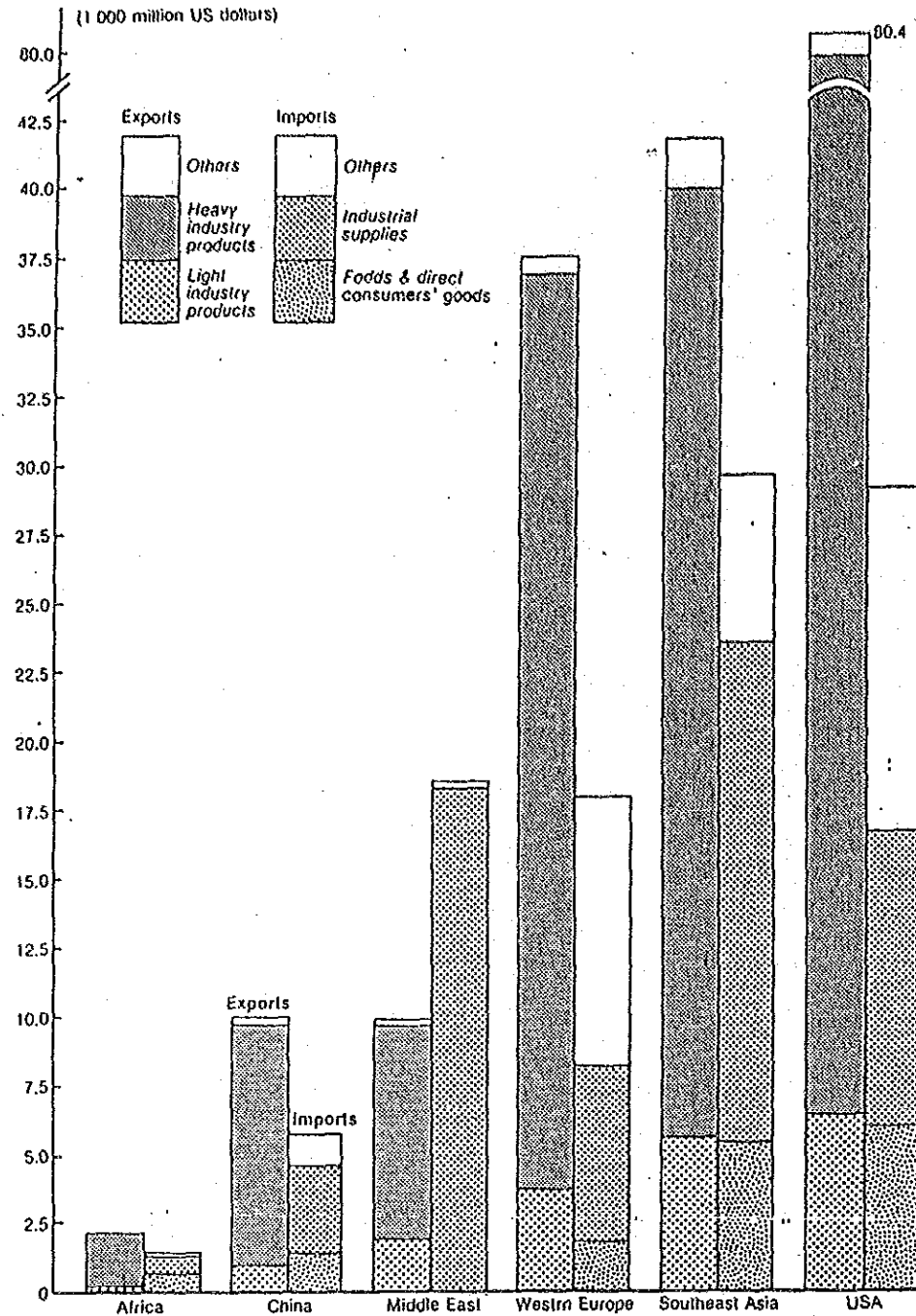
a, He (Hyper-expansion way), ever-increasing share of production, trade and investment in the world economy to emerge as a super-power

b, Sa (Structural adjustment way), encouragement of more domestic economic activities through government financial policies than external trade

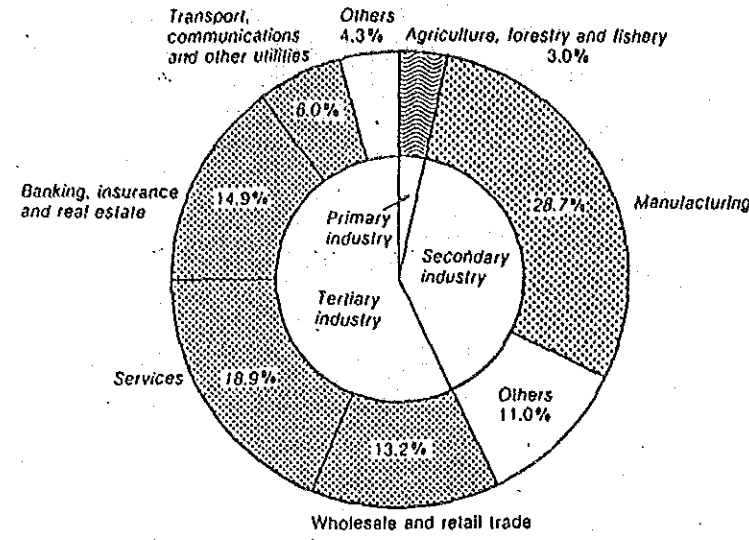
c, She (Sane, humane and ecological way), de-commoditisation of land, labor and credit, de-centralisation, de-development and local self-reliance



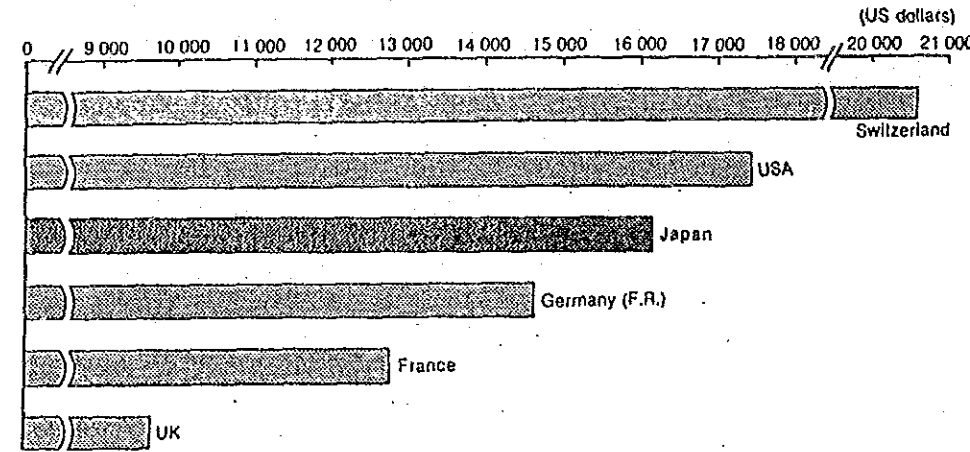
1. Japanese External Trade by Areas and Main Commodity Groups, 1986



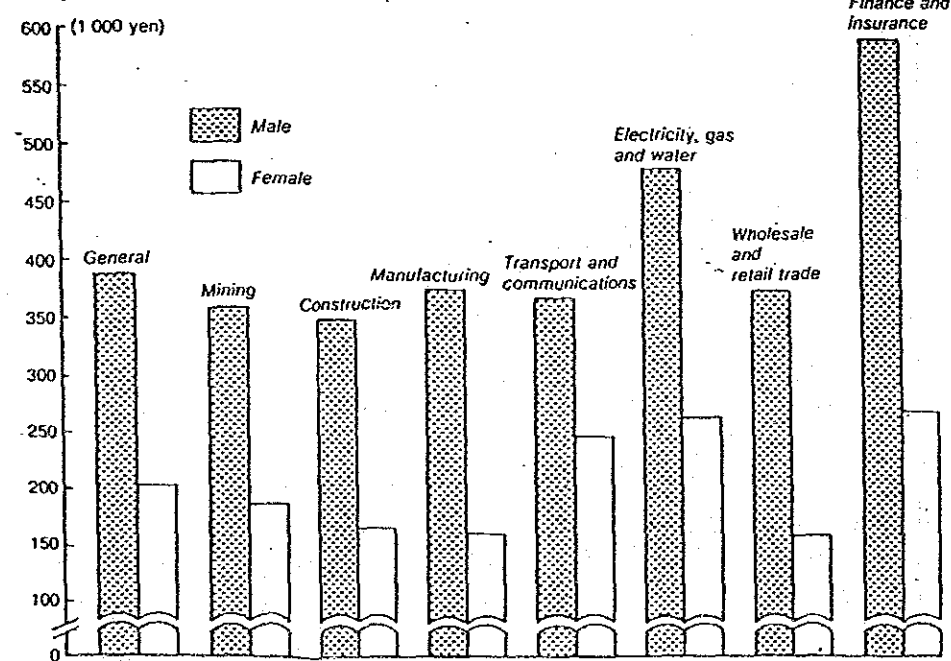
2. Composition of Industrial Origin of Gross Domestic Product for 1985



3. Per Capita Gross Domestic Products in 1986

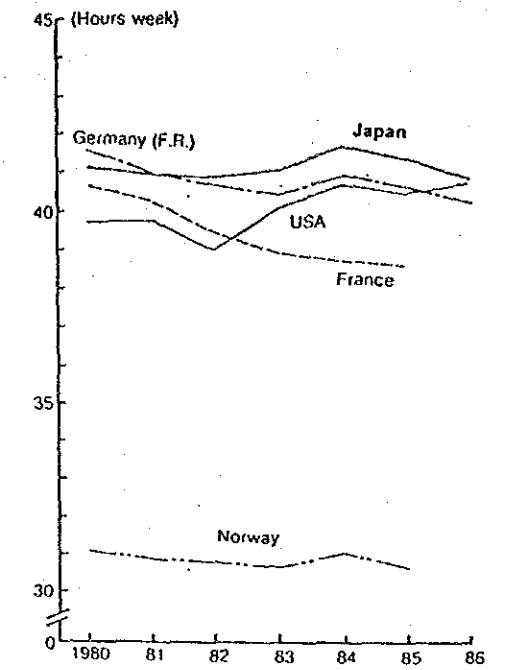


4. Average Monthly Cash Earnings, 1986

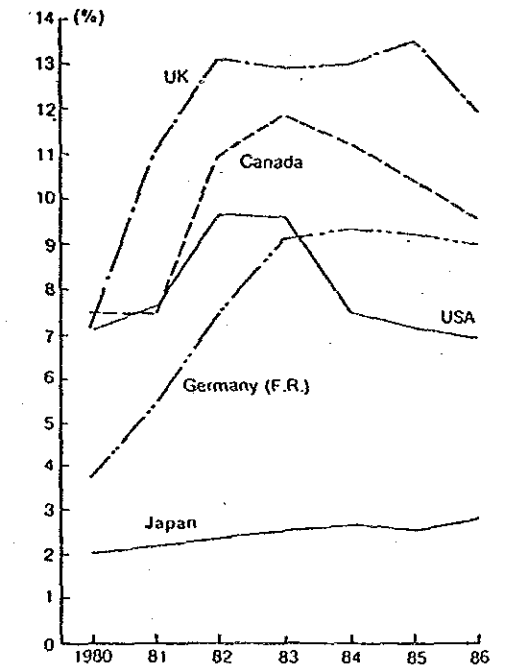


Note: Data refer to earnings of regular workers in establishments with 30 or more regular workers.

5. Hours of Work in Manufacturing, Selected Countries



6. Percentage of Unemployed Persons, Selected Countries



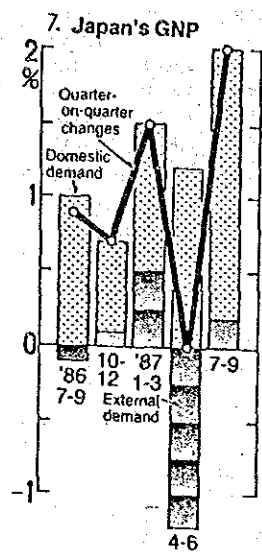




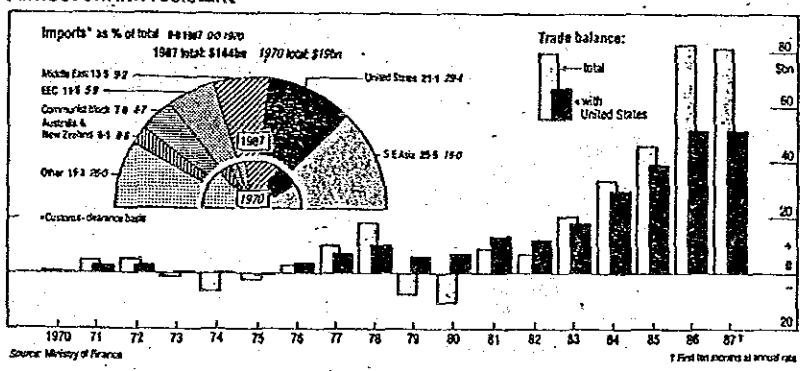
### 6. WORLD RANKING — BY ASSETS — OF BANKS

1982			1986		
1 Citicorp	US	1 Dai-ichi Kangyo Bank	Japan		
2 Bankamerica Corp.	US	2 Fuji Bank	Japan		
3 Bank Nationale de Paris	France	3 Sumitomo Bank	Japan		
4 Crédit Agricole	France	4 Mitsubishi Bank	Japan		
5 Crédit Lyonnais	France	5 Sanwa Bank	Japan		
6 Barclays Group	Britain	6 Citicorp	US		
7 National Westminster	Britain	7 Norinchukin Bank	Japan		
8 Dai-ichi Kangyo Bank	Japan	8 Industrial Bank of Japan	Japan		
9 Société Générale	France	9 Crédit Agricole	France		
10 Fuji Bank	Japan	10 Bank Nationale de Paris	France		
11 Deutsche Bank	W. Germany	11 Tokai Bank	Japan		
12 Mitsubishi Bank	Japan	12 Crédit Lyonnais	France		
13 Sumitomo Bank	Japan	13 Mitsu Bank	Japan		
14 Midland Bank	Britain	14 Deutsche Bank	W. Germany		
15 Chase Manhattan Corp.	US	15 Mitsubishi Trust & Banking	Japan		
16 Sanwa Bank	Japan	16 Sumitomo Trust & Banking	Japan		
17 Royal Bank of Canada	Canada	17 National Westminster Bank	Britain		
18 Bank of Tokyo	Japan	18 Barclays Group	Britain		
19 Banco do Brasil	Brazil	19 Mitsu Trust & Banking	Japan		
20 Manufacturers Hanover	US	20 Société Générale	France		

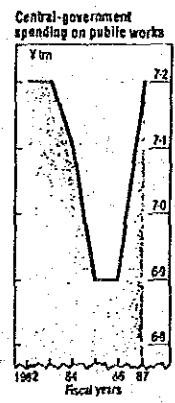
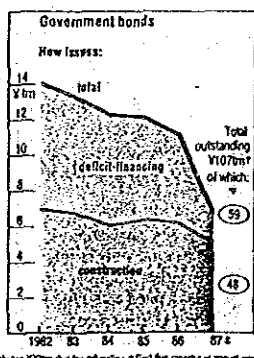
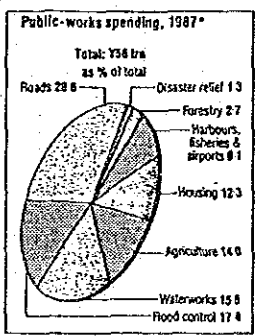
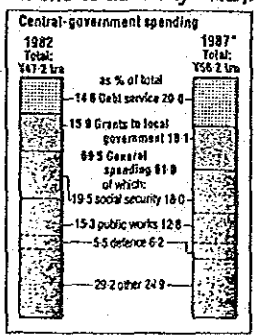
Source: The Banker.



### 8. Almost shrink resistant



### 9. An end to austerity



Source: Ministry of Finance, Bank of Japan

\* Proposed 1 October 1987 due to rounding. † First five months at annual rate

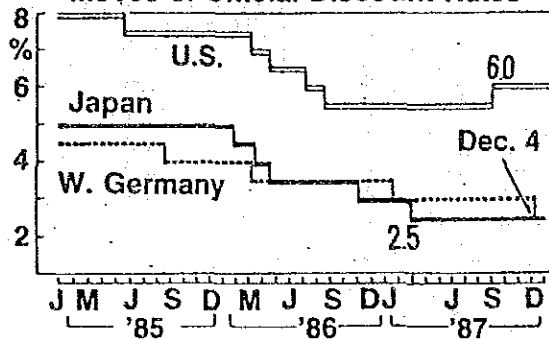
### 10. India's Trade with Japan

(In Million Dollars)

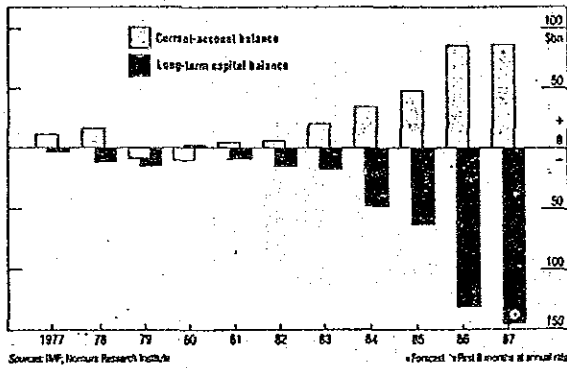
Year	Imports	Exports	Main Commodity Composition (1985)			
			Imports		Exports	
1978	730.3	743.1	Steel	334.3	Iron Ore	428.5
1979	779.5	1,053.0	Machinery & Equipment	940.8	Shrimps	223.4
1980	914.8	1,014.3	Textile Products	80.8	Diamonds	148.1
1981	1,197.4	1,056.7			Manufactured Products	66.1
1982	1,408.3	1,122.1			Non-ferrous Metals	26.6
1983	1,324.0	1,140.0			Leather Products	12.5
1984	1,167.8	1,132.4				
1985	1,596.4	1,188.6				

Source: Japanese Ministry of International Trade and Industry, *Trusho Hakusho*, ('White paper on Japan's Trade'), 1980, 1983, 1984 & 1986.

### 11. Moves of Official Discount Rates

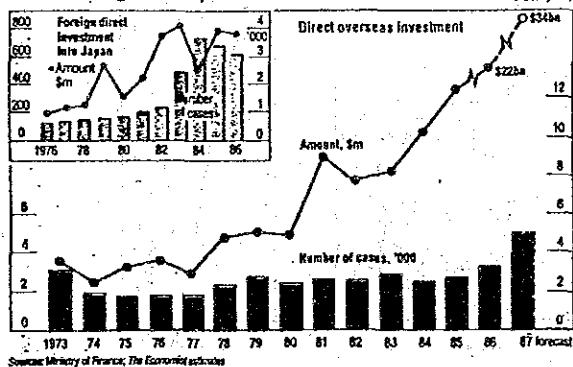


### 12. The swelling tide



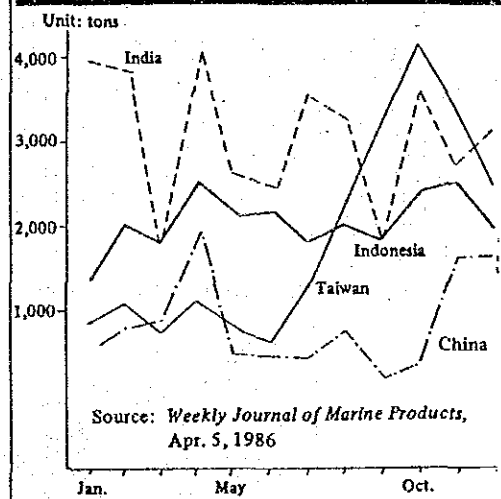
Source: IMF, *Monitors Research Institute*

### 13. Putting the surpluses to work



Source: Ministry of Finance, *The Economist* estimates

### 14. Monthly Change in Import Volume of Prawns of Japan by Main Exporting Countries



Source: *Weekly Journal of Marine Products*, Apr. 5, 1986

### 15. Japan's balance of payments

